

2022年度 松尾湿原の 植生調査報告書【第16号】



サギソウ観察会終了後観察広場にて (2022年8月20日)



サギソウ



ハッチョウトンボ

宝塚エコネット

1. はじめに

今年は、宝塚エコネット設立 20 周年にあたります。

松尾湿原の活動は 18 年目になり、いまでは、私共の活動の中心となっており、毎月一回松尾湿原に行くことが、会員の一番の楽しみにもなっております。

長い間 続けてくることができましたのは、ひとえに、多くの方々のご支援、ご協力によるものですが、なかでも、継続してご支援いただいております宝塚市社会教育課、環境政策課、北摂里山博物館協議会の皆様、ご指導いただいております足立先生、福井先生に
こころより感謝申し上げます。

宝塚エコネット 代表 小川恭弘

目 次

1. はじめに	1
2. 宝塚自然の家と松尾湿原の写真	2
3. 1 年の活動を振り返って	3
4. 松尾湿原の沿革と活動の概要	4
5. 松尾湿原の植物一覧と調査記録	9
6. 植生マップ	13
7. ハッチョウトンボの観察	54
8. 松尾湿原植生調査報告書発行に寄せて	55

2. 宝塚自然の家と松尾湿原の写真

宝塚自然の家 住所;宝塚市大原野字松尾1



“宝塚自然の家”敷地内にある松尾湿原の全景



3. 1年の活動を振り返って

宝塚エコネットの皆様がこれまで取り組まれてきた植物の分布調査や、多岐にわたる湿原の保全活動が報告書としてまとめられ成果となり、また、資料として積み重ねられていくことは非常に意義あることと考えます。

松尾湿原をはじめ、宝塚には小規模な湿原がいくつかあります。これらも過去の松尾湿原と同様に、植生遷移によって、周辺の樹木による被陰、それに伴う湿原面積の減少及び湿原植物の消失がおこっています。燃料革命以前は、湿原の周辺は里山として利用されており、湿原に陽があたるような環境が図らずも維持されていたと考えられています。里山が利用されなくなった現在においては、湿原を保全するためには樹木の伐採などの人の手による管理が必要となります。

本報告書には、管理をおこなったあとの湿原植物の生育状況も詳細に記録されています。周辺の樹木の伐採などをおこなうことで湿原が維持されており、様々な生き物の生息・生育の場所として、また、市民が身近に湿原に触れあえる場として十分な機能を継続して発揮しているものと確信しています。

長年にわたり、皆様とご一緒に活動に参加させていただけること、本当に楽しく、また、大変ありがたく感じております。改めて感謝申し上げます。
私の知識が少しでもお役立ちするのであれば、引き続き、微力ながらお手伝いさせていただければと思っております。

宝塚エコネットの皆様の想いがつまった貴重な自然環境である松尾湿原を、宝塚市民の方々をはじめいろいろな方にご活用いただき、自然とのふれあい活動の場や環境学習の場として、また新たな気づきが生まれる場とであり続けてほしいと願っています。

福井 聡

4. 松尾湿原の沿革と活動の概要

注;2000年までは「宝塚市史 第三巻 P599」、及び「宝塚市自然保護協会会報(2001)別刷」を参照した

期 日	主 な 出 来 事
1960(S35)	この地域は、宝塚市が野外活動センターとして土地取得するまでは民間の山林 青少年センターの活動が始まる
1963(S38)	
1968(S43)	
1970(S45)	
1973(S48)	この頃センター職員がサギソウが生育する場所として大事にされていたようだ
1978(S53)	200人の収容施設が完成、「宝塚市立少年自然の家」が設立
2000(H12)	松尾湿原が宝塚市の「天然記念物」に指定される 湿原面積178㎡
2002(H14)	湿原の半分を専門業者により重機を利用して30cm掘り下げ貧栄養の状態にする
2004(H16)	ボランティアグループ「宝塚エコネット」の設立
2005(H17)	「宝塚エコネット」が保全活動に着手
2006(H18)	周辺常緑樹の伐採を主体とする活動を実施（年5回活動）
通期	自然保護協会と「里山のふしぎ発見」のイベントを実施
通期	周辺常緑樹の伐採を主体とする活動を実施（年7回活動）
2007年度 (H19)	4月 保全活動の成果を調査する方法を宝塚市自然保護協会足立会長に相談する
	4月 「宝塚エコネット」のリーフレット完成
	5月 植生調査の事前講習会開催 講師は兵庫県立大学の服部先生
	5月 湿原の勉強のため足立会長と甲山湿原の見学
	講師として福井先生（当時（株）里と水辺研究所に勤務）
	モニタリングを実施するため8か所の調査地を設定
	6月 湿原植物の標本作成開始
	8月 甲山湿原と松尾湿原で花の観察会を実施
2008年度 (H20)	9月 松尾湿原地図作成
	通年 保全活動と植生調査活動の実施（2007年度16回活動）
	4月 2007年度植生調査報告書完成
	7月 宝塚自然の家がマイクロバスによる送迎を開始(7月12日)
2009年度 (H21)	8月 松尾湿原で花の観察会を実施
	10月 観察広場の一部を湿原に拡張する準備
	松尾湿原のリーフレット完成(A4サイズ)
	12月 宝塚市民環境フォーラムで「植生調査活動」の発表を行う
	通年 保全活動と植生調査活動を実施(2009年度14回活動)
2010年度 (H22)	4月 2009年度植生調査報告書完成
	8月 松尾湿原の案内看板完成
	8月 花の観察会
	10月 松尾湿原のリーフレットの改訂を行い200部印刷
	2月 斜面に登山道階段の作業着手
	3月 観察広場の湿原化を宝塚市の許可を受け本格的に整備を開始
	通年 保全活動と植生調査活動を実施（2010年度15回活動）

期 日		主 な 出 来 事
2011年度 (H23)	5月	2010年度植生調査報告書完成
	8月	花の観察会において焼き板(ラミネート加工した樹木名を取り付け)の名札付け
	10月	「あいな野草クラブ」松尾湿原の保全活動について見学
	11月	「人と自然の博物館の講演会」参加 松尾湿原が「北摂里山博物館」の対象となる。
	12月	湿原内の刈り取った草で初めて”焼き芋作り”体験を実施
	3月	湿原入口に「北摂里山博物館」の看板が設置された。
	3月	宝塚市より観察広場の湿原拡張作業の了承を得たので作業開始する。
	通年	保全活動と植生調査活動を実施(2011年度17回活動)
2012年度 (H24)	5月	2011年度 植生調査報告書完成
	5月	観察広場の湿原拡張化の工事完了 手すり(柵)を移設する
	6月	36年ぶりにハッチョウトンボを発見する 一斉調査を7月14日に行い22匹確認
	7月	「松尾湿原及びその周辺の植物ポケット図鑑」の発行
	7月	宝塚コープ委員会(環境部門)が見学会に来られる
	8月	一般市民参加による花の見学会を開催
	10月	秋の湿原観察会 芋ほり体験
	11月	北摂里山博物館・宝塚市自然保護協会と協働で里山保全体験
	通年	保全活動と植生調査活動を実施 (2012年度13回活動)
2013年度 (H25)	5月	2012年度 植生調査報告書完成
	6月	平成25年度 環境保全功労者知事表彰を受賞
	7月	第2回目のハッチョウトンボの一斉調査を7月13日に行い32匹確認
	7月	多聞エコクラブが松尾湿原へ見学会に来られる(7月20日)
	8月	一般市民参加による花(サギソウ)の見学会
	8月	湿原内への立ち入り禁止、植物採取禁止の立札を立てる
	10月	秋の湿原観察会 芋ほり体験
	11月	北摂里山博物館・宝塚市自然保護協会と協働で里山保全体験
	1月	使用されてない「かまど」の解体撤去
	通年	保全活動と植生調査活動を実施(2013年度16回活動)
2014年度 (H26)	6月	2013年度 植生調査報告書完成
	7月	第3回目のハッチョウトンボの一斉調査を7月19日に行い55匹を確認
	8月	丸山湿原群天然記念物指定記念セミナーで松尾湿原の活動を発表する
	8月	一般市民を募集してサギソウの観察会を実施
	10月	兵庫県阪神北地域ビジョン委員会が松尾湿原の見学に来る
	10月	秋の湿原観察会 ECO講座受講生の植生調査体験 芋ほり体験
	11月	北摂里山博物館・宝塚市自然保護協会と協働で里山保全体験
	2月	観察広場に設置の木製机が宝塚自然の家の手により修理完了し新しくなった
	通年	保全活動と植生調査活動を実施 (2014年度16回活動)
2015年度 (H27)	5月9日	2014年度植生調査報告書完成
	6月20日	ハッチョウトンボ観察会に”とよなか市民環境会議アジェンダ21”12名参加 127匹確認
	8月22日	県民局主催の湿原連携ワークショップ(講演・発表;アピア1 現地見学;松尾湿原)
	8月22日	2012年5月湿原拡張(復元)場所に始めてサギソウを18本確認
	9月19日	ウメバチソウを見つけた (天然記念物指定当時生育の記録はあったがその後見られなかった)
	10月15日	「宝塚自然の家の一時閉鎖」に関する件を市役所社会教育課にて説明を受ける
	10月24日	あびき湿原保存会 49名見学に訪

期 日		主 な 出 来 事
2015年度 (H27)	11月2日	案内看板の屋根の桧皮交換 腐食対策のため支柱コンクリート覆い
	11月14日	宝塚市自然保護協会などのイベント「湿原保全と秋の野遊び」
	12月18日	環境省より重要な里地・里山に宝塚市の西谷地区等(松尾湿原を含む)が選ばれた
	1月5日	「宝塚自然の家の一時的閉鎖」に伴い松尾湿原の保全活動の継続要望書を提出
	1月29日	宝塚市長より活動の要望書に関して保全活動許可の回答書を受け取る
	3月19日	宝塚自然の家のマイクロバス利用による最後の松尾湿原活動
	通年	保全活動と植生調査活動を実施(2015年度12回活動)
2016年度 (H28)	4月1日	宝塚自然の家は本年度より2年間休所となる、保全活動は続行可能となる
	4月16日	休所後の最初の活動日 宝塚市のマイクロバスで社会教育課の係員同乗
	6月6日	2015年度植生調査報告書完成
	6月11日	加西市の「あびき湿原」を見学
	7月16日	ハッチョウトンボ見学会を開催し161匹を確認 まだ増加している
	8月20日	宝塚ECO講座受講生とサギソウの調査を開催
	11月19日	宝塚市自然保護協会と「湿原保全体験」を共同で開催
2017年度 (H29)	3月26日	宝塚市主催の「ギフチョウ観察とカマド体験」 参加者へ松尾湿原を説明をする
	通年	保全活動と植生調査活動を実施 (2016年度10回活動)
	5月29日	能勢町の「地黄湿原」トキソウの見学
	6月7日	京都教育大学 環境教育実践センター 南山先生等 松尾湿原のヤマトキソウの見学
	6月15日	2016年度植生調査報告書完成
	6月29日	山門水源の森公園の湿原見学(宝塚エコネット 創立15周年記念行事)
	7月15日	ハッチョウトンボ見学会を開催
2018年度 (H30)	8月19日	サギソウ観察会
	10月25日	コープこうべ現地調査 読売テレビ番組「奥様情報BOX」で放映
	11月11日	宝塚市自然保護協会と「湿原保全体験」を共同で開催
	3月8日	北摂里山魅力づくり応援事業発表会 川西アステ
	3月24日	湿原周囲の竹柵や杭が朽ちて破損しているので新しい竹に取り替えた
	通年	保全活動と植生調査活動を実施 (2017年度13回活動)
	6月6日	西谷の湿地(佐曽利湿地)で”にしたによいしょ”林代表の案内によりトキソウ見学 引き続き松尾湿原でヤマトキソウを見学
2018年度 (H30)	7月1日	2017年度植生調査報告書完成
	7月14日	ハッチョウトンボ見学会を開催 152匹確認
	8月19日	ECO講座受講生参加 サギソウ観察会
	11月18日	北摂里山こども探検隊のイベントで 草刈り・のこぎり体験
	1月初旬	老朽化している木造2階建ての小屋「リーダーハウス」が撤去される
	2月21日	キセラ川西プラザにて 北摂里山魅力づくり応援事業報告会で活動成果を発表
	3月16日	リーダーハウス小屋の跡地周辺の草刈り作業をする サンショウウオの卵囊調査
2018年度 (H30)	通年	保全活動と植生調査活動を実施 (2018年度12回活動)

期 日		主 な 出 来 事
2019年度 (令和元年)	4月27日	湿原入り口の道路沿いのカイズカイクキの枝切
	7月10日	観察橋横のナラ枯れ樹木を市に依頼して伐採実施
	7月13日	ハッチョウトンボの観察会 99匹を確認
	8月17日	サギソウの観察会 花数451
	9月14日	リーダーハウス小屋跡地の湿原化作業の現場打合せ
	9月27日	2018年度植生調査報告書完成
	10月19日	市に依頼してリーダーハウス小屋跡地を重機を使用して湿原化整備工事を実施
	11月16日	北摂里山こども探検隊のイベントで 草刈り・のこぎり体験
	3月21日	湿原周囲に取り付けている柵の竹が朽ちているため防腐処理した木材に取り換える
	通年	保全活動と植生調査活動を実施（2019年度11回活動）
2020年度 (令和2年)	4月25日	新型コロナウイルス感染防止の緊急事態宣言発令のため活動を中止
	5月16日	新型コロナウイルス感染防止の緊急事態宣言発令のため活動を中止
	7月11日	ハッチョウトンボの調査 90匹を確認
	8月22日	サギソウの観察会 花数 661
	11月14日	「里山を楽しむ・湿原を守ろう」のイベントで保全活動とのこぎり体験実施
	1月18日	湿原上部の太いヒノキ3本を石井さんに伐採してもらう
	2月25日	2019年度「松尾湿原の植生調査報告書」60部完成
	3月20日	掲示板に社会教育課で印刷して頂いたB2サイズの松尾湿原説明ポスターを掲示
	通年	保全活動と植生調査活動を実施（2020年度 9回活動）
2021年度 (令和3年)	4月24日	新型コロナウイルス感染防止の緊急事態宣言発令のため活動を中止
	5月15日	新型コロナウイルス感染防止の緊急事態宣言発令のため活動を中止
	6月9日	ハッチョウトンボの生態調査開始 大阪府大平井先生による
	7月10日	ハッチョウトンボの調査 98匹を確認
	8月21日	サギソウの観察会 花数 295
	11月13日	「里山を楽しむ・湿原を守ろう」のイベント 一般参加者0人
	2月3日	2020年度「松尾湿原の植生調査報告書」60部完成
	通年	保全活動と植生調査活動を実施（2021年度 8回活動）

期 日		主 な 出 来 事
2022年度 (令和4年)	4月23日	ショウジョウバカマ等4種類の植物の植生調査
	5月21日	6種類の植物の植生調査
	6月18日	7種類の植物の調査 樹木名札付け対象樹木の選定
	7月16日	ハッチョウトンボの観察会 37匹を確認 植生調査と保全活動
	8月20日	サギソウの観察会 花数 443輪確認
	9月17日	7種類の植物の植物調査
	9月25日	「大阪みどりのトラスト協会」一行26名の松尾湿原の見学に対応
	10月9日	「ヤッホの森湿地を育む会」代表の田中さん他8名の松尾湿原の見学に対応
	10月16日	6種類の植物の植生調査 樹木名札付けの試行
	11月19日	イベント「里山を楽しみ湿原を守ろう」で樹木の名札付けを実施
	12月10日	湿原の保全活動と樹木の名札付けに使用する焼き板作り
	1月28日	積雪のため湿原内の“刈り草”の排出は出来ず フェスタ500のイベント用の材料づくり
	3月18日	湿原内の刈り取られた草の搬出 保全作業具の棚卸
	2月3日	2021年度(第15号)植生調査報告書完成60部
	通年	保全活動と植生調査活動の実施 (2022年度11回活動)

5. 松尾湿原の植物一覧と調査記録

この植物一覧表は、活動開始時期(2007年)からの保全活動、植生マップ作り、モニタリング調査等の活動で見つけた植物(草木含む)を アイウエオ順に記載しています。

なお、紙面の都合で2007年度～2012年度は削除しています。

(1)湿原に生育し「湿原植物」として区分けされるものには◎をつけています。

(2)RDB(レッドデータブック)

①国 NT;現時点での絶滅危険度は小さいが、生育条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

②近畿 C;絶滅の危険性が高くなりつつある

③兵庫県 B;絶滅の危険が増大している。極力生息環境、自生地などの保全が必要
C;存続基盤が脆弱性なもの

* 注) 2010年度の兵庫県の基準から、オニスゲが外れました(それまでは'C'ランク)。
2020年からマメスゲが兵庫県RDBのC⇒Bランクになった。

(3)1990年以降植物の分類体系が最近DNA解析により系統学手法が用いられ科名の変更となっているものがあります(APG植物分類体系)。科名欄の()内には新しいAPG科名を記載しています

(4)確認個体数は、会員が調査活動日にカウントし、咲いている花の数や株数を「数字」で示しています。

調査は主に湿原植物と会員の興味ある花などを対象としています。

広範囲に生育し、本数などのカウントが困難なものは「範囲」と記載しています。

調査しなかった植物は空白としています。

(5)植生マップページは本報告書の掲載ページを示しています。

(6)花の写真ページは、「松尾湿原及びその周辺の植物ポケット図鑑」(2012年8月発行)又は図鑑の「追加分」(2015年5月発行)の掲載ページを記載しています。

(7)2017年にはヒメヤブランを追加しました。

(8)調査対象としない下記の樹木は2016年度から削除しました。

アカマツ、イソノキ、イロハモミジ、ウメモドキ、エゴノキ、クリ、スギ、ソヨゴ、ハンノキ、ヤブコウジ、リョウブ

No	湿原植物	種 名	科名(APG科名)	RDB			開花時期								植生マップページ	ポケット図鑑ページ	備 考
				国	近畿	県		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022		
1	◎	アオコウガイゼキショウ	イグサ				8～9月									77	
2		アオツツラフジ	ツツラフジ				7～8月									51	
3		アキノキリンソウ	キク				6～7月									101	
4	◎	アブラガヤ	カヤツリグサ				7～8月									52	
5	◎	アリノトウグサ	アリノトウグサ				7～8月	範囲	範囲	範囲			範囲	範囲	範囲	34	53
6		アリマウマノスズクサ	ウマノスズクサ				6～7月	3本	4本	7本	6本	32本	範囲	範囲	33株	29	追-7
7		イ	イグサ				6～9月									54	
8	◎	イトイヌノヒゲ	ホシクサ				7～8月	範囲	範囲	範囲	範囲	範囲	範囲	範囲	範囲	43	56
9		イトハナビテンツキ	カヤツリグサ				8～9月									78	2010年度に追記
10	◎	ウメバチソウ	ユキノシタ(ニシキギ)				9～10月	1株	1株	2株	1株	2株	3株	3株	3株	53	-
11		オオバトンボソウ	ラン				6～7月	6本	2本	7本	4本	4株	4株	3株	3株	30	追-9
12		オオチドメ	セリ(ウコギ)				6～10月									79	
13	◎	オオミズゴケ	ミズゴケ	NT		C			範囲	範囲	範囲	範囲	範囲	範囲	範囲	24	113
14		オタルスゲ	カヤツリグサ				5～6月	範囲	範囲	範囲	範囲	範囲			範囲	19	39
15	◎	オニスゲ	カヤツリグサ				5～6月	範囲	範囲	範囲	範囲	範囲	範囲	66株	範囲	26	40
16	◎	カキラン	ラン			C	6～7月	369本	429本	357本	592本	327株	143株	168株	191株	31	58
17		カヤラン	ラン			C	4～5月									17	着生植物
18	◎	カリマタガヤ	イネ				8～10月									80	
19		ガンピ	ジンチョウゲ				5～6月									41	2010年度に追記
20	◎	キセルアザミ	キク				9～10月	範囲	範囲			範囲	範囲	範囲	範囲	46	102
21		キツネノマゴ	キツネノマゴ				夏～秋									81	2009年に確認
22		ケネザサ	イネ													109	
23	◎	コアゼカヤツリ	カヤツリグサ													82	
24	◎	コイヌノハナヒゲ	カヤツリグサ				9～10月	範囲	範囲		範囲	範囲	範囲	範囲	範囲	48	59
25		ゴウソ	カヤツリグサ				5～6月	範囲	範囲	範囲	範囲	範囲			範囲	18	43
26	◎	コケオトギリ	オトギリソウ				7～8月	範囲	範囲		範囲	範囲	範囲	範囲	範囲	39	83
27	◎	コシンジュガヤ	カヤツリグサ		C											84	
28		コバノミツバツツジ	ツツジ				4～6月									20	
29	◎	コマツカサススキ	カヤツリグサ				8～9月									85	
30	◎	サギソウ	ラン	NT	C	B	7～8月	235本	271本	376本	524本	451本	661本	295本	443本	36,37	60

[illegible]

[illegible]

6. 植生マップ

今年も松尾湿原にはたくさんの花が咲きました。私達会員は調査し易い花や興味ある植物などを選んで、そんな花たちが湿原のどの場所にどのくらい咲いているかを調査し記録しました。その成果が植生マップです。

調査活動は、毎月1回とし出来るだけ前年と同じ時期に実施するよう計画しましたが、開花の最盛期とのずれもあり花数などは調査できない植物もありました。「－」は調査を実施しなかったものです。

調査数は原則として株数をカウントしていますが、株数が分からないものはツボミや花の数をカウントしています。又、小さな花が広範囲に咲いている場合は、生育範囲のみを示しています。

下記の表は2020年の調査日順に配列しています。

NO	湿原植物	RDB	植物名	調 査 日								記載ページ (2022年)
				2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	
1			ショウジョウバカマ	4/25	4/16	4/22	4/28	4/27	3/20	－	4/23	14
2			タチツボスミレ	4/25	4/16	4/22	4/28	4/27	-	－	4/23	15
3			シハイスミレ	4/25	4/16	4/22	4/28	4/27	3/20	－	4/23	16
4			チゴユリ	4/25		－	4/28	4/27	-	－	－	－
5	◎		ヒメアギスミレ	4/25	4/16	4/22	4/28	4/27	-	－	－	－
		◎	ヤマトキシソウ	6/20	6/18	6/17	6/23	6/8,22	6/6	6/14	5/21	22
6	◎	◎	オオミズゴケ	－	4/16	5/20	4/28	4/27	6/20	6/19	4/23	24
7	◎		ヤチカワズスゲ	5/16	5/21	5/20	5/19	4/27	-	－	4/23	17
8	◎		モウセンゴケ	6/20	5/21	6/17	5/19	5/18	6/20	6/19	5/21	25
9			ゴウソ	5/16	5/21	5/20	5/19	5/18	-	－	5/21	18
10			オタルスゲ	5/16	5/21	5/20	5/19	5/18	-	－	5/21	19
11			ヒメコヌカグサ		5/21	6/17	5/19	5/18	-	5/26	5/21	21
12		◎	マメスゲ		5/21	6/17	5/19	5/18	-	－	5/21	20
14	◎		オニスゲ	6/20	5/21	6/17	5/19	6/22	6/20	6/19	6/18	26
15	◎	◎	ノハナショウブ	6/20	6/18	6/17	6/23	6/22	6/20	6/19	6/18	27
16			ササユリ	6/20	6/18	6/17	6/23	6/22	6/20	6/19	5/21	28
18			シライトソウ	－	6/18	6/17	6/23	6/22	6/20	6/14	5/21	23
19			アリマウマノスズクサ	6/20	6/18	6/17	6/23	6/22	6/20	6/19	6/18	29
20			オオバノトンボソウ	7/18	7/16	7/15	7/14	6/22	6/20	6/19	6/18	30
17	◎	◎	カキラン	6/20	6/18	6/17	6/23	6/22	7/11	6/19	6/18	31
21			ノギラン	7/18	7/16	7/15	7/14	7/13	7/11	7/10	7/16	32
22			チゴザサ				7/14	7/13	7/11	7/10	7/16	33
41			アリノトウグサ	7/18	7/16	7/15	－	－	7/11	7/10	7/16	34
23	◎	◎	サギソウ	8/22	8/20	8/19	8/18	8/17	8/22	8/21	8/20	36,37
24	◎	◎	ムラサキミミカキグサ	7/18	7/16	7/15	8/18	8/17	8/22	8/21	8/20	35
25	◎		ヒメシロネ	－	7/16	7/15	8/18	8/17	8/22	8/21	8/20	38
27	◎		コケオトギリ	7/18	7/16	－	8/18	8/17	8/22	8/21	6/20	39
26	◎		ホザキノミミカキグサ	9/19	8/20	8/19	8/18	8/17	9/19	8/21	8/20	40
28	◎		コイヌノハナヒゲ	9/19	9/17	－	8/19	9/14	9/19	10/16	9/17	48
29	◎		シロイヌノヒゲ	9/19	7/16	－	9/15	9/14	9/19	9/19	9/17	42
30	◎		イトイヌノヒゲ	9/19	7/16	9/16	9/15	9/14	9/19	9/19	9/17	43
31	◎		サワヒヨドリ	－	9/17	－	9/15	9/14	9/19	9/19	9/17	44
32	◎	◎	ミズギボウシ	9/19	9/17	9/16	9/15	9/14	9/19	8/21	9/17	41
33	◎		サワギキョウ	9/19	9/17	9/16	9/15	9/14	9/19	9/14	9/17	45
34	◎		ヌマガヤ	10/17	9/17	－	9/15	9/14	9/19	10/16	10/15	49
35	◎		キセルアザミ	9/19	9/17	－	－	9/14	9/19	9/19	9/17	46
36			センブリ	10/17	10/22	10/21	10/20	10/19	10/17	9/19	9/17	47
37			ツルリンドウ	10/17	10/22	10/21	10/20	10/19	10/17	10/16	10/15	50
38			リンドウ	10/17	10/22	10/21	10/20	10/19	10/17	10/16	10/15	51
39			ヤマラッキョウ	10/17	10/22	10/21	10/20	10/19	10/17	10/16	10/15	52
40	◎		ウメバチソウ	9/19,10/17	10/22	10/21	10/20	10/19	10/17	10/16	10/15	53
42			ヒメヤブラン			7/15	－	－	-	－	－	－
43			ヒメハギ	4/25		4/22	－	－	-	－	－	－

ショウジョウバカマ ユリ科 (シュロソウ科)

2022年4月23日調査



● 範囲表示

- は地番表示位置 間隔は5m
- 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



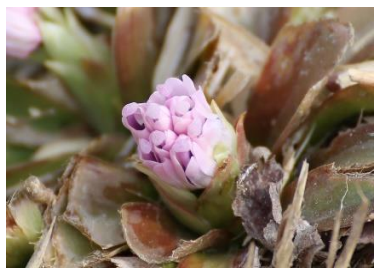
花期は終わっていた。40mラインより上にも新しい集団ができていた。湿原右斜面に片寄っている。地下水の滲み出し具合からか…？左斜面C30～C35にかけて新しく広がっていた。
A地点とB地点は今回初の場所。



開花後果柄が上向きになる



種子



始めに雌しべの柱頭が飛び出した雌性期



開花すると雄しべが伸びて雄性期

- 【草丈】……10～17cm 常緑多年草
- 【葉の形】…葉は広い線形でなめらか、根元から多数出てロゼット状に平らに広がる
- 【花】…… 淡紅色、紫色、白色と変化に富んでいる
- 【特徴】… 花茎は結実期に伸張して60cmに達するものもある
- 【花期】… 3月～4月

タチツボスミレ スミレ科

2022年4月23日調査



株表示 30株

- ・ ■ は地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



第1湿原内には見られない、
道路沿いに見つかった。
第2水源調査で咲いていないが株が多く見つかった。
生垣の伐採後生息範囲が広がったようだ。



【草丈】……5～20cm 双子葉植物 多年草
【葉の形】…葉はハート形で先が少しとがる 縁には細かい鋸歯がある 光沢はない
【花】……淡い紫色
【特徴】……成長すると茎は地表に伸びて立ち上がる
代表的なスミレ
【花期】……3月～5月

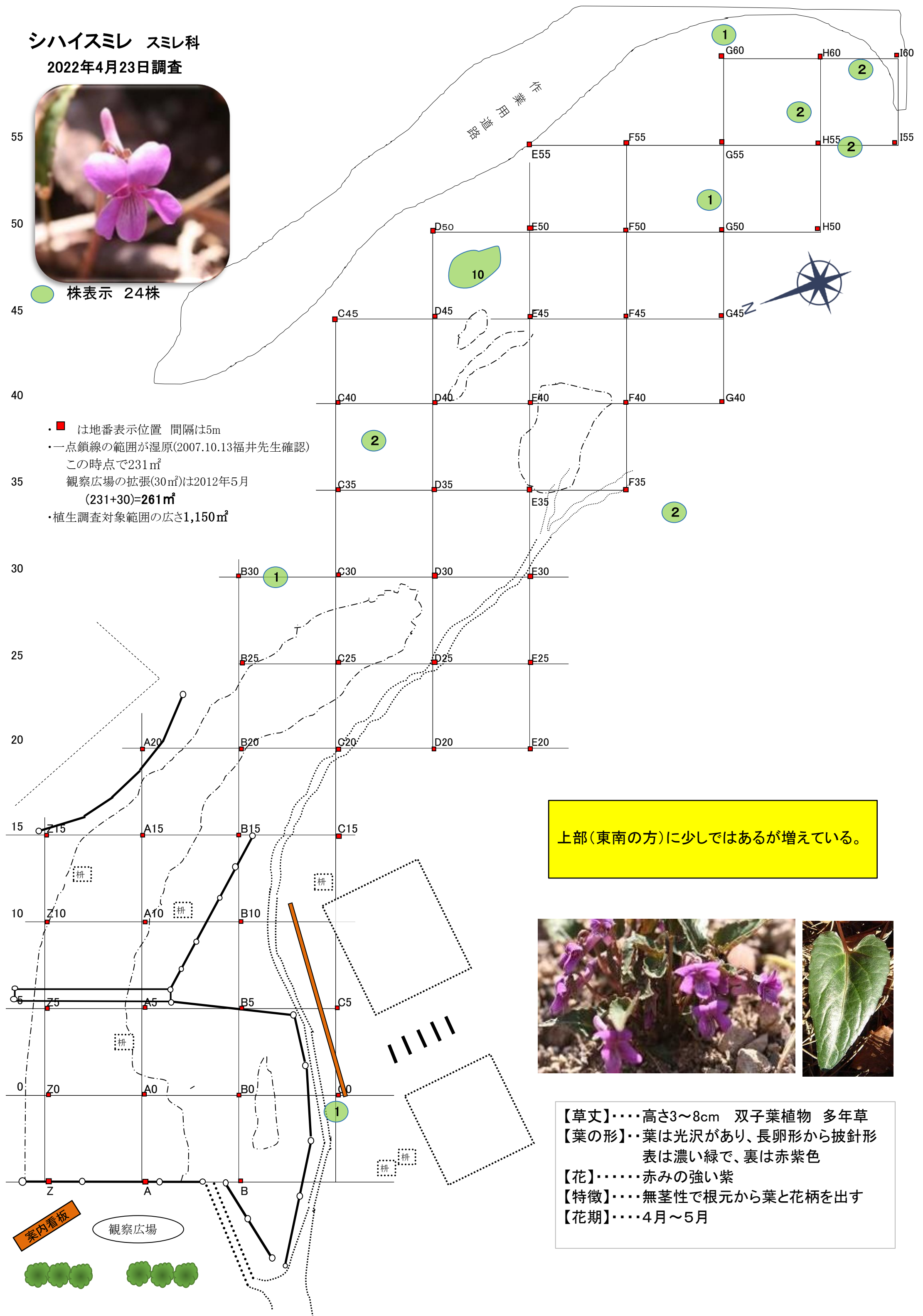
シハイスミレ スミレ科

2022年4月23日調査



株表示 24株

- ・ ■ は地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



上部(東南の方)に少しではあるが増えている。



- 【草丈】.....高さ3～8cm 双子葉植物 多年草
- 【葉の形】..葉は光沢があり、長卵形から披針形
表は濃い緑で、裏は赤紫色
- 【花】.....赤みの強い紫
- 【特徴】.....無茎性で根元から葉と花柄を出す
- 【花期】.....4月～5月

ヤチカワズスゲ カヤツリグサ科 湿原植物
2022年年4月23日調査



● 範囲表示

- は地番表示位置 間隔は5m
- 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



● 以外にも、まばらにあった。

- 【草丈】.....10~40cm
- 【葉の形】..葉は幅2mm
- 【花】.....花茶色(栗褐色 果胞)
- 【特徴】.....果胞は長さ約5cm 熟すと褐色になり
開放し反り返る
- 【花期】.....4月~6月

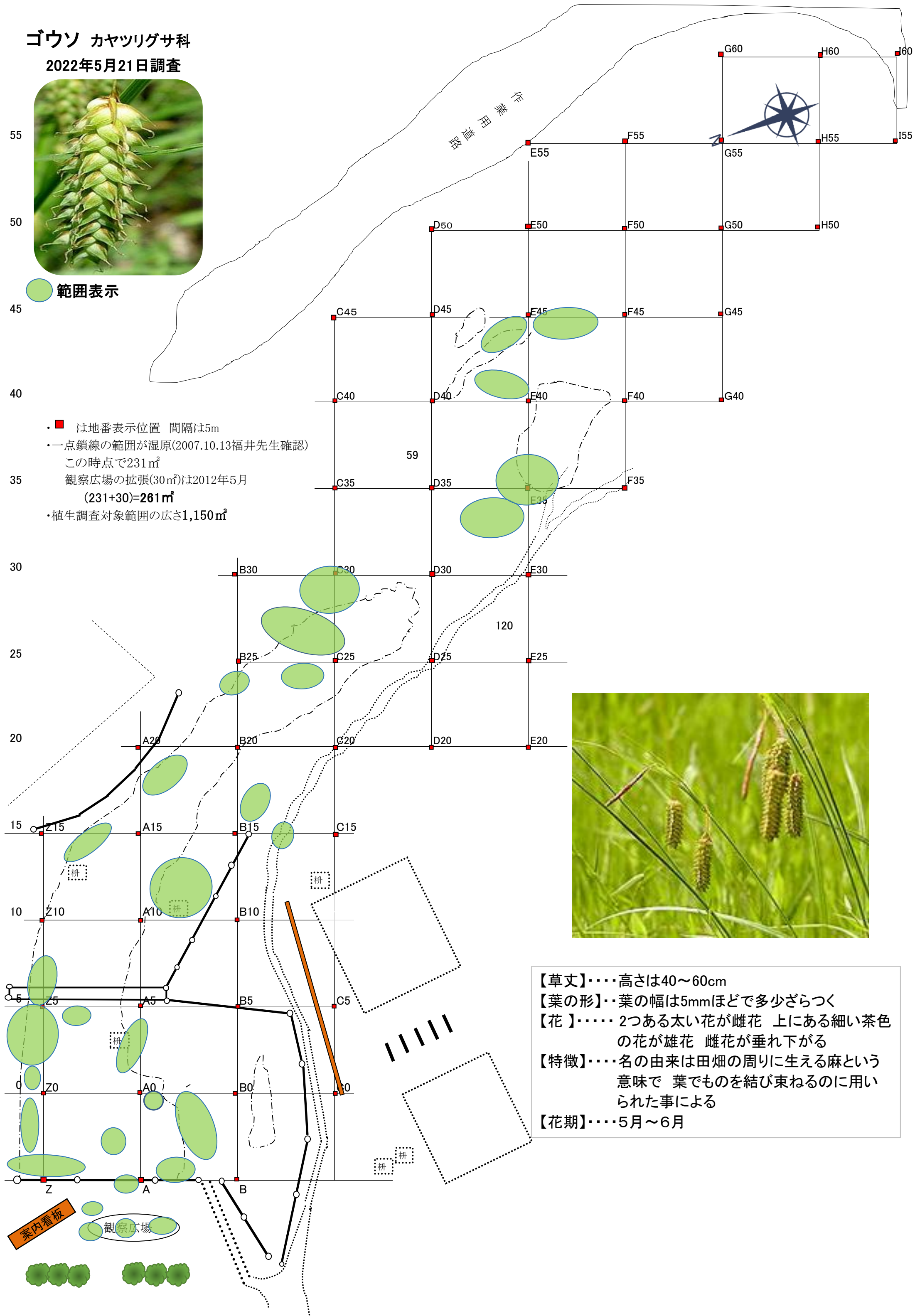
ゴウソ カヤツリグサ科

2022年5月21日調査



● 範囲表示

- は地番表示位置 間隔は5m
- 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231m²
観察広場の拡張(30m²)は2012年5月
(231+30)=261m²
- 植生調査対象範囲の広さ1,150m²



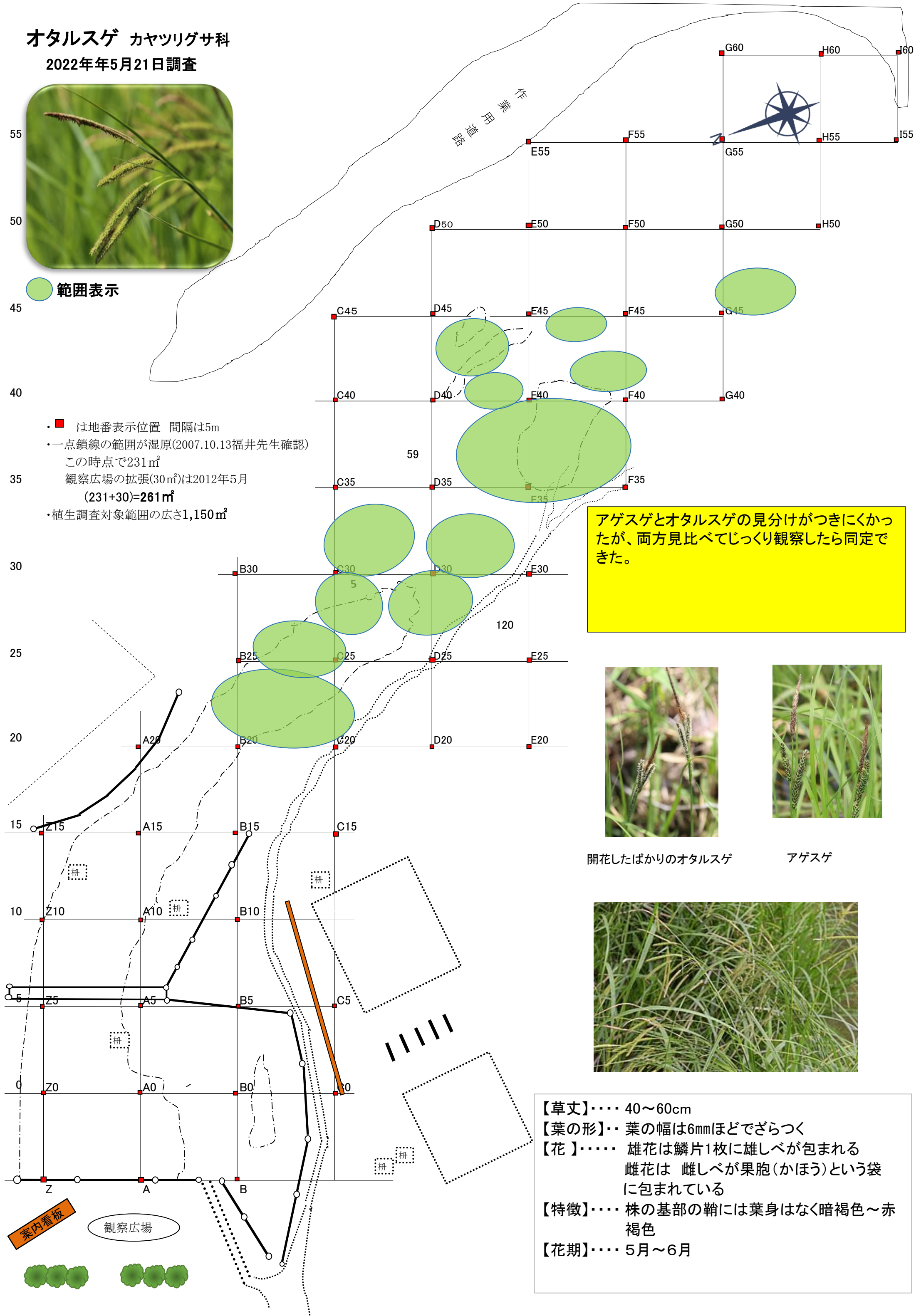
- 【草丈】……高さは40～60cm
【葉の形】…葉の幅は5mmほどで多少ざらつく
【花】…… 2つある太い花が雌花 上にある細い茶色の花が雄花 雌花が垂れ下がる
【特徴】……名の由来は田畑の周りに生える麻という意味で 葉でものを結び束ねるのに用いられた事による
【花期】……5月～6月

オタルスゲ カヤツリグサ科
2022年年5月21日調査



● 範囲表示

- ■ は地番表示位置 間隔は5m
- 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



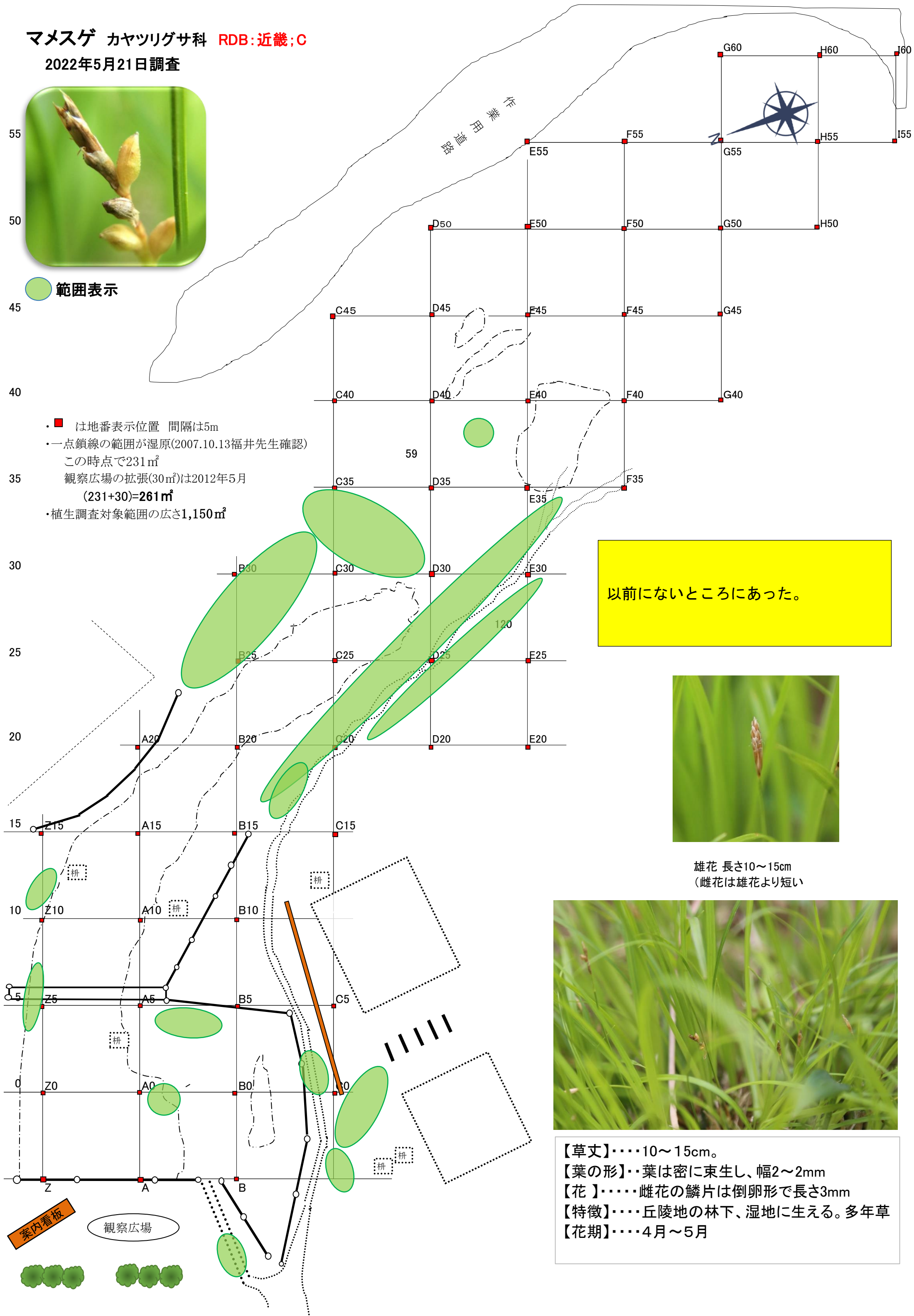
マメスゲ カヤツリグサ科 RDB:近畿;C

2022年5月21日調査



● 範囲表示

- 地番表示位置 間隔は5m
- 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



以前にないところにあった。



雄花 長さ10~15cm
(雌花は雄花より短い)



【草丈】……10~15cm。
【葉の形】…葉は密に束生し、幅2~2mm
【花】……雌花の鱗片は倒卵形で長さ3mm
【特徴】……丘陵地の林下、湿地に生える。多年草
【花期】……4月~5月

ヒメコヌカグサ イネ科

2022年5月20日調査



(73本)

- ・ ■ は地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



湿原内 Z10 近くから橋の下の崖沿いに掛けて、計16本みられた。通路西側(観察広場向かい側)の草地下の湿地では、たくさん確認できた。湿地西南部 崖下に32本、同 運動広場側に21本、湿地北側に4本あった。この湿地では生育範囲が広がっているようだ。今後、この湿地の地図も必要である。



【草丈】……40～70cm。多年生植物
【葉の形】…葉は軟質で無毛、淡緑色、線形
【花】……円錐花序、花下に関節がある
【特徴】……やや湿った地に生える。全体軟弱
【花期】……4月～6月

草地下の湿地

2022年5月21日調査



55

50

45

40

35

30

25

20

15

10

5

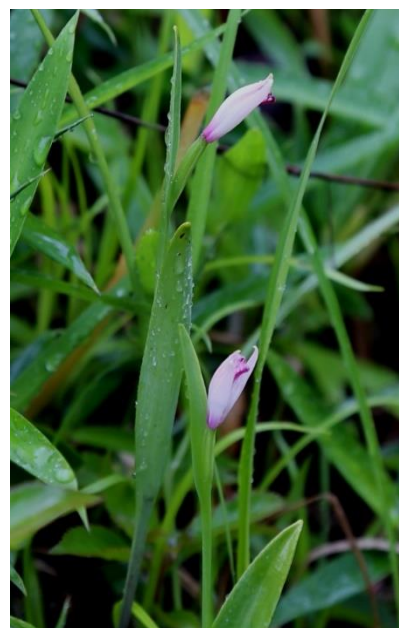
 $\dot{\sigma}$

0

作業者用直器



種子



花



蓄

【草丈】・・・10～20cm
 【葉の形】・葉はやや厚く肉質 長楕円形 長さ3～7cm
 幅4～12mm
 【花】・・・花は花茎の頂端に上向きに単生するが
 ほとんど開かず 深紅色 萼片長さ12mm
 【特徴】・・・山地の日当たりの良い湿った草地や湿
 地の周辺部に生える多年草、トキソウより
 も小型
 【花期】・・・5月～6月

シライトソウ ユリ科(シュロソウ科)

2022年5月21日調査



株表示 1株

- ・ ■ は地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



今年も1本生え、花も咲いた。



【草丈】……15～40cm
【葉の形】…根生葉は ロゼット状に展開する 葉身は倒披針形で長さ8～14cm
【花】…… 花茎を1本立ち上げ 多数の白い糸状の花を付ける
【特徴】……茶席に生ける花として好まれ香りも良い
【花期】… 5月～6月



5月に花茎が伸びていた

オオミズゴケ ミズゴケ科 湿原植物 RDB:国;NT、県;C
2022年4月23日調査



● 範囲表示

- ・ 地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



孢子囊

前回8か所→今回10か所に増えていた。
今回は、苔の大きさを測った。

モウセンゴケ有

松尾湿原にある2種類の苔の見分け方
左：ミズゴケ、 右：オオミズゴケ



- 【草丈】・・・10cm以上
- 【葉の形】・・・茎葉は舌形で、先端はささくれがある
- 【孢子】・・・雌雄異株で壱(孢子囊)はめったに形成しない
- 【特徴】・・・葉の貯水性が高く、園芸用として利用価値が高い
- 【繁殖】・・・植物体の断片から再生することにより繁殖する

モウセンゴケ モウセンゴケ科 湿原植物 食虫植物
2022年5月21日調査



● 範囲表示

- ・ 地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



乾燥したところには、無くなっていた。
ハウス跡湿地(第2湿原?)の地図は下に
記す。
今回は、モウセンゴケの範囲の大きさを
測った。



【草丈】……3～17cm
【葉の形】…先端はややふくらみ 粘液滴を持つ線毛
がある ハエやガなどを捕まえる
【花】……花は白い花びらが5枚 茎の中心から花
柄を伸ばし 花柄は先端が渦巻きの一
に丸まっている
【特徴】……ミズゴケ類の育つような栄養が乏しい湿
地に生育する
【花期】……5月～7月

- 道
- 下の草地
- 下の湿地
- 20 X 20cm
- 水溜り

2022年6月18日調査



55

50

45

40

35

30

25

20

15

10

 σ

作業用直器



写真左より種子、果胞

A close-up photograph of two green, spiky, star-shaped plant structures, likely young seed heads or flower buds, surrounded by long, narrow green leaves. The structures are composed of several pointed, green segments radiating from a central point, with fine, hair-like structures visible at the tips. The leaves are long, narrow, and green, with some showing signs of wear or damage. The background is a soft, out-of-focus green, suggesting a natural, outdoor setting.

【草丈】・・・30～60cmで長い匍匐枝を伸ばす
 【葉の形】・葉は幅4～8mmの線形
 【花】・・・茎の上部にふつう小穂が3個つく。このうち
 1つは柄が長く雄花が多数つき、残りの小
 穂は柄がなく多数の雌花がつく
 【特徴】・・・雌小穂は大きな金平糖のような形をしてい
 て目立つ
 【花期】・・・5月～6月

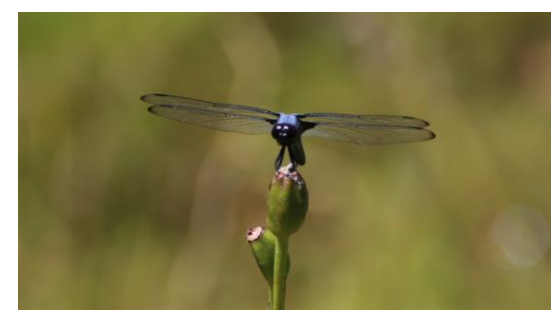
ノハナショウブ アヤメ科 湿原植物 RDB:近畿;C,県:C

2022年6月18日調査



● 株表示 10株

- は地番表示位置 間隔は5m
- 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



8月頃 若い果実はトンボに人気

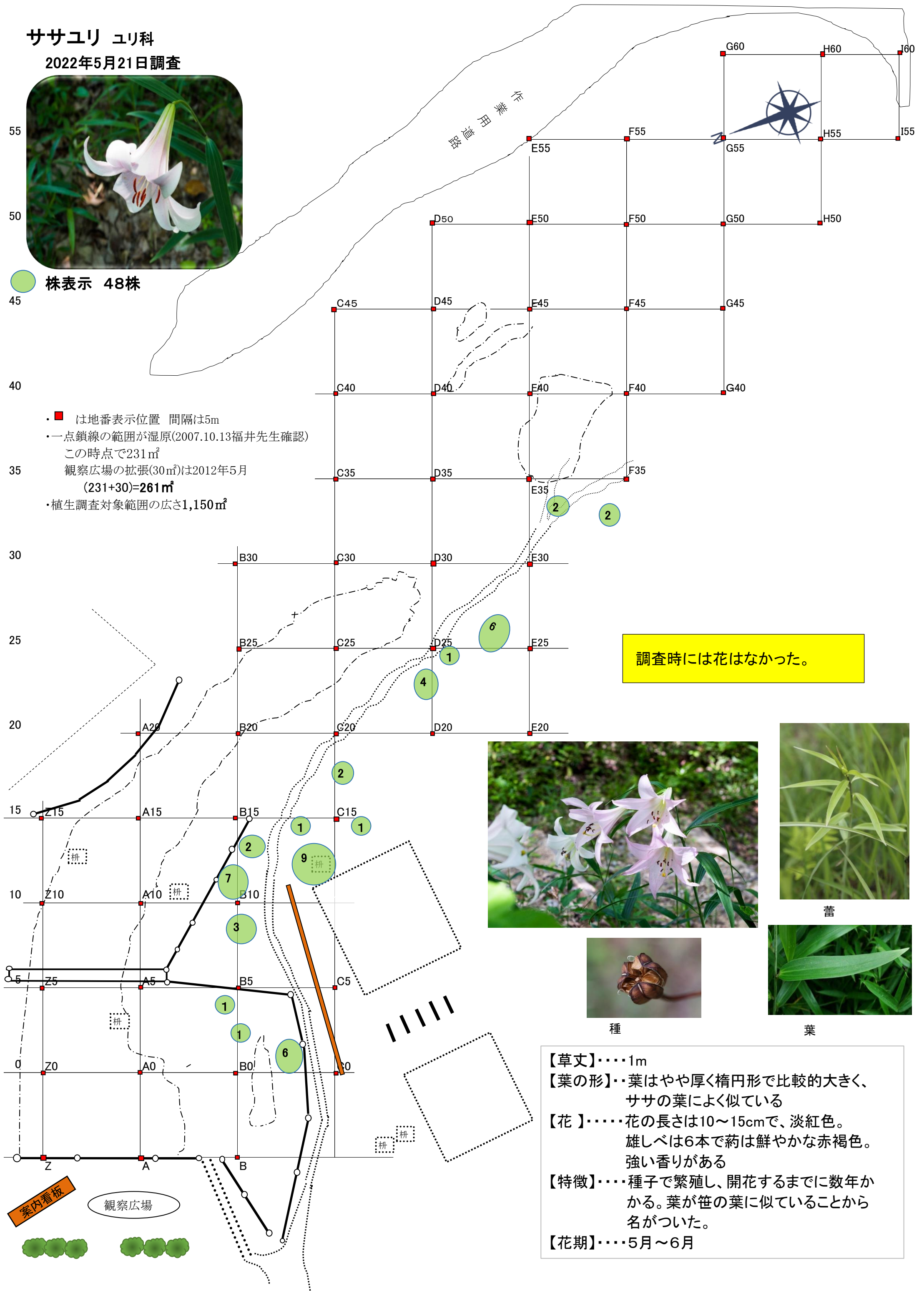
ササユリ ユリ科

2022年5月21日調査



株表示 48株

- ・ ■ は地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



蕾



種



葉

- 【草丈】……1m
- 【葉の形】…葉はやや厚く楕円形で比較的大きく、ササの葉によく似ている
- 【花】……花の長さは10～15cmで、淡紅色。雄しべは6本で葯は鮮やかな赤褐色。強い香りがある
- 【特徴】……種子で繁殖し、開花するまでに数年かかる。葉が笹の葉に似ていることから名がついた。
- 【花期】……5月～6月

アリマウマノスズクサ ウマノスズクサ科

2022年6月18日調査

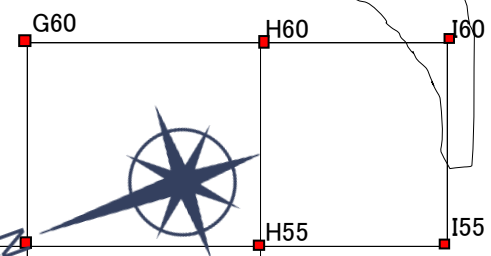


● 株表示 33株

花は残り花1ヶ

- 地番表示位置 間隔は5m
- 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡

器磁田機奈



か細い茎の背の低いものが多く、
増えてきたように思う。
根元が太い株が2〜3ある。
冬を越せるように、冬場の草刈り時に
刈り取ってしまわないようにしたい。

根元太い花1ヶ

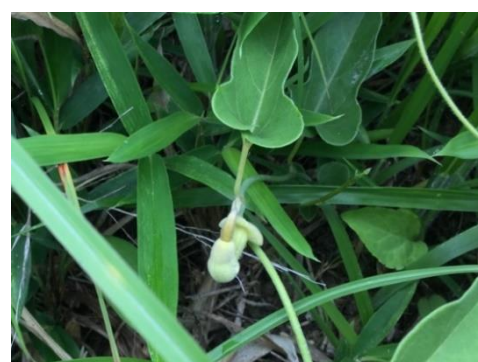
【草丈】……草地に生育する多年生の蔓植物
長さ2〜5m

【葉の形】…葉は長いハート型をしており交互に生える
葉はジャコウアゲハの餌になる

【花】……花被が筒状になりU字形になっているもの
が多い

【特徴】…牧野富太郎が有馬温泉で発見。葉の形が
馬面で、実が馬の首にける鈴に似る

【花期】… 6月〜8月



2年ぶりに花が咲きました。

オオバトンプソウ ラン科

2022年6月18日調査



株表示 3株

- ・ 地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



開花前ですが距などが確認出来る



春の幼生期



開花

- 【草丈】・・・50～60cm
- 【葉の形】・・・葉は茎を抱くようにつき長楕円形で葉先は三角形である
- 【花】・・・小さな緑黄色の花をまばらに穂状につける
- 【特徴】・・・疎林の林床や半日陰になる林縁に生育。花がトンボに似ているトンボソウに比べて葉が大きい。多年草
- 【花期】・・・6月～7月

カキラン ラン科 湿原植物 RDB:県;C
2022年6月18日調査



株表示191株

- ・■ は地番表示位置 間隔は5m
- ・一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



上の方は右側にも見られた。
花が咲いていて探しやすい。



- 【草丈】・・・30～70cm
- 【葉の形】・・・葉は互生で狭卵形。長さ7～12cm
幅2～4cmで縦じわがある
- 【花】・・・頂生花序に3個から十数個の花をつける
花は黄褐色 径1.5cm、唇弁には紫色の脈が目だつ
- 【特徴】・・・湿原の中央部で生育していることはなく、
表土がやや湯気味の湿地周辺で群生することが多い
- 【花期】・・・ 6月～8月

オオミズゴケがかさ高く成長して、カキランが出てこれて
いなかったが、出やすいところに移動して出てきている。

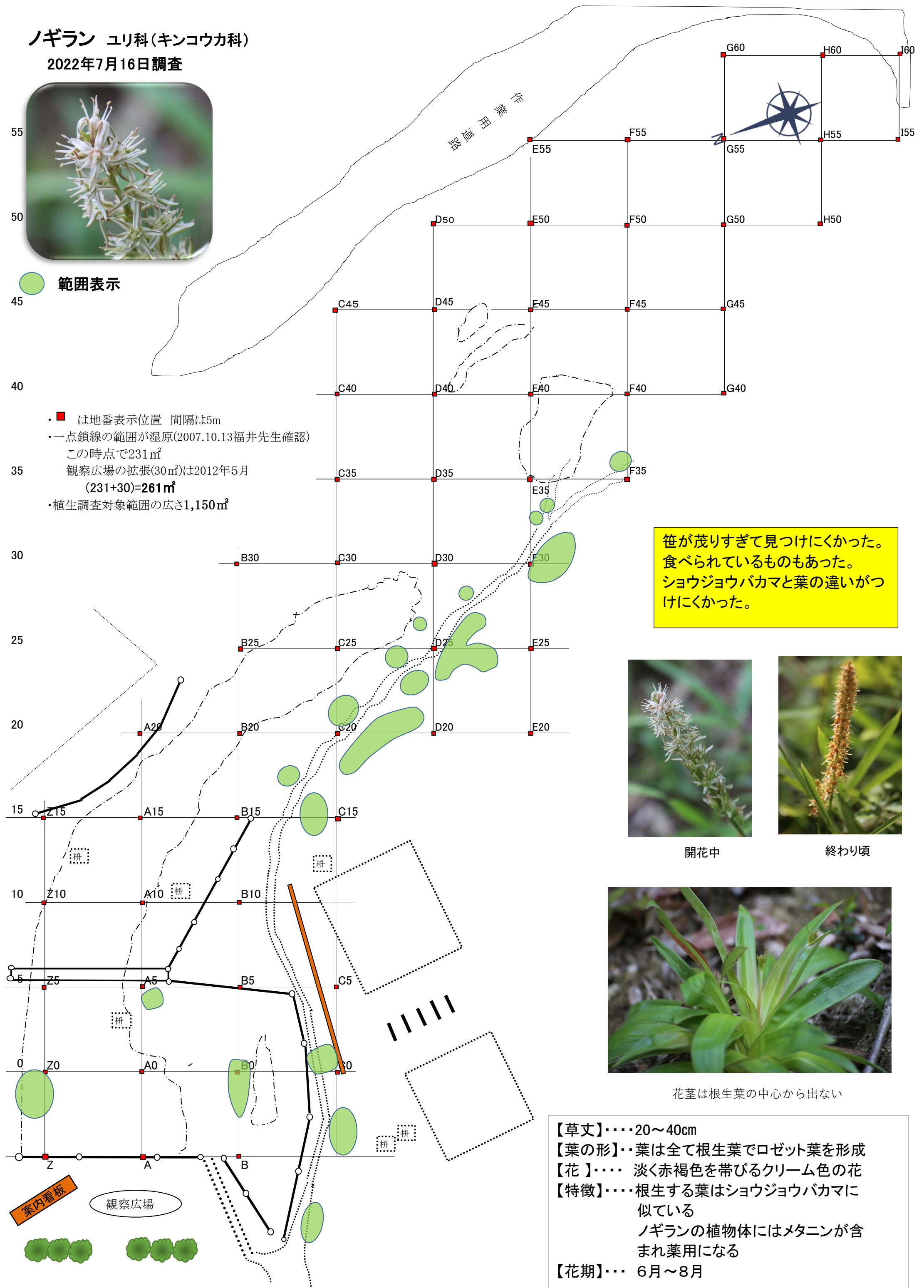
ノギラン ユリ科(キンコウカ科)

2022年7月16日調査



範囲表示

- ・ 地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



チゴザサ イネ科 湿原植物
2022年7月16日調査



範囲表示

- ・ ■ は地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



ハッチョウトンボの幼体が隠れています



- 【草丈】... 30~40cm
- 【葉の形】... 長さ4~6cm 幅4~6mm
身は倒披針形で長さ8~14cm
- 【花】... 花は円錐花序で紅紫色
- 【特徴】... 湿地に群生する
- 【花期】... 6月~8月

アリノトウグサ アリノトウグサ科 湿原植物

2022年7月16日調査



● 範囲表示

- ・ ■ は地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



湿地でないところで、日当たりがいいところに生殖しやすいのか、多く繁殖している。



雄性期の花



雌性期の花

【草丈】……10～40cm
【葉の形】…卵形～卵円形で鈍鋸葉があり、長さ1cm
前後、無毛
【花】……1～2mm 小さな黄褐色の花、ガクは
小豆色 雄性先塾、果実は石果で球形
【特徴】……茎の下部は地面を這い、節から茎が
立つ、茎は赤褐色を帯びる
【花期】……7月～8月

ムラサキミミカキグサ タヌキモ科 湿原植物 食虫植物 RDB:国;NT,近畿;C,県;C
2022年8月20日調査



● 範囲表示

- ・ ■ は地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



2022年8月20日調査



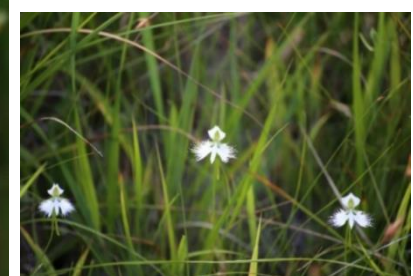
45

- 35

本数には、蕾 咲き始め 咲き終わりを含む
2009年7月10日～11日にサギソウの苗を
人と自然の博物館から移植した。



3~4cmの距(蜜壺)が見える



花の直径は3cm程度

- 【草丈】・・・20～40cm
 【葉の形】・・・10cm程度の細長い葉で3～5枚互生 根元に向かう
 【花】・・・純白で唇弁の先端が三つに割れる
 形は白鷺を思わせる 茎の先端から5輪程度咲く
 【繁殖】・・・球根で越冬し地下茎を伸ばす 夜行性のスズメガ科
 昆虫が長い距の蜜を吸い花粉を媒介する
 【特徴】・・・日当たりの良い湿地に生息する 自生状態が見ら
 れる場所は減少している 絶滅危惧種
 【花期】・・・7月～8月

案内看板

觀察広場

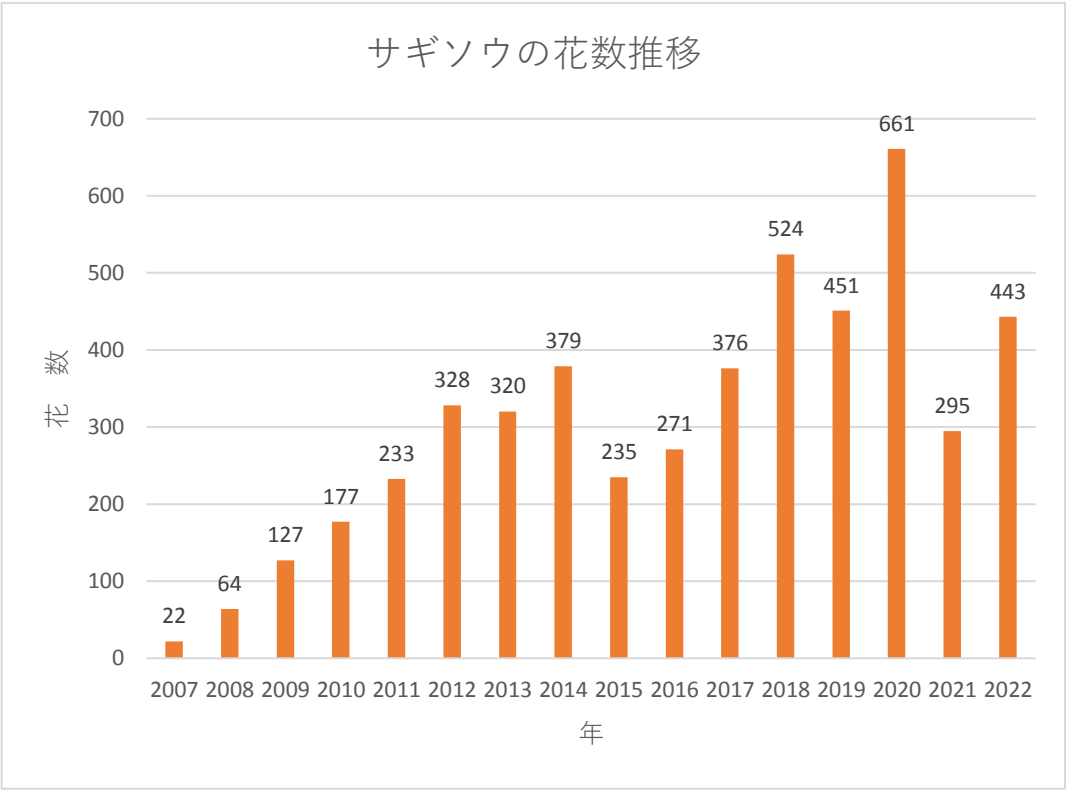
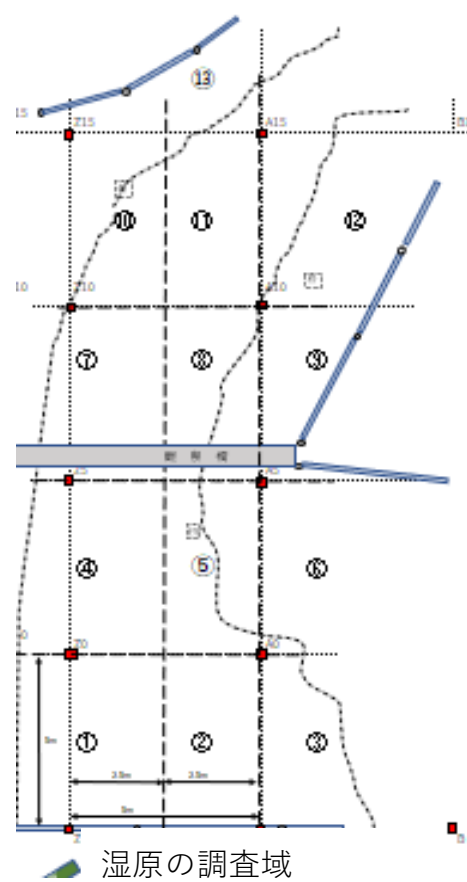
リーダハウス跡

サギソウの花数の調査記録

サギソウの花数の調査開始から14年間の増加状態が分かります。
調査開始当初は調査範囲が少なかったが、2012年より湿原の調査域を13区画に増加しています。
観察広場の一部は2012年5月に湿原化工事が完了し、2020年では花数が266で全体の40.2%を占めていた。

場所	調査年															
	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
*																27
⑬						5			3	5			11	52	65	64
⑫				4		10	4	2	1	51		40	16	27	11	26
⑪			21	17	9	47	43	41	11	20	58	25	61	26	22	20
⑩				3			9	4	13	19	4	45	40	61	20	6
⑨					2	13	2	2				35	38	1	11	20
⑧	4	4		4		38	52	15	73	10	53	66	25	35	11	39
⑦	3	23	8	13	68	59	82	140	55	60	53	76	34	90	31	27
⑥						5	4	11		50		1	1	3	2	11
⑤	11	12	28	23	9	55	25	40	25	13	59	79	39	52	12	43
④	4	25	70	113	144	100	99	124	37	17	53	36	20	48	15	24
③	①～③は2011年3月～2012年5月に湿原拡張工事を行った区域です。				1				1	5		6	16	30	11	35
②									4	2	10	27	35	51	39	42
①									12	19	40	86	115	185	45	59
合計	22	64	127	177	233	332	320	379	235	271	330	522	451	661	295	443

*：⑬の上部及びリーダ跡



ヒメシロネ シソ科 湿原植物
2022年8月20日調査



● 範囲表示

- ・ ■ は地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



上限の水のあるところに増えていた。
サワヒヨドリと間違えやすいけど、葉の裏
など見て確認していきました。



10月に果実を付ける

【草丈】……30～70cm
【葉の形】…細長く披針形
長さ4～8cm 幅5～15mmで対生
【花】……葉の付け根に直径5mm程の唇形の花を付ける
【特徴】… 名前の由来となった白い太い地下茎を持つ
別名「晩秋紅葉」という
【花期】… 8月～9月

コケオトギリ オトギリソウ科

2022年8月20日調査



● 範囲表示

45

40

35

30

25

20

15

10

5

0

- ・ ■ は地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡

昨年とほぼ同じ。



【草丈】.....3~10cm

【葉の形】・ 広卵形で日にすかすと半透明の明点が散らばっている

【花】.....花は黄色で径5~8mm 雄しべが5~10個

【特徴】.. 葉は秋には紅葉する

【花期】... 7月~8月

ホザキノミカキグサ タヌキモ科 湿原植物 食虫植物

2022年8月22日調査

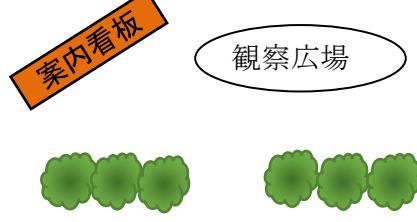


55
50
45

範囲表示

- ・ 地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡

35
30
25
20
15
10
5
0



花の時期が終盤にさしかかって
いたため、花がを見つけにくか
ったが、群生は確認できた



- 【草丈】.....10～30cm
- 【葉の形】..2～3.5mmの細長いへら状
- 【花】.....淡い紫色で5mmに満たない小さな花(受け口)
- 【特徴】... 果実は丸く 耳かき状にはならない
- 【花期】... 6月～8月

ミズギボウシ ユリ科(キジカクシ科) 湿原植物 RDB: 近畿; C

2022年9月17日調査

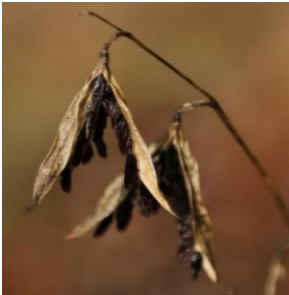


● 範囲表示

- ・ ■ は地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



去年あった所が見つからなかった。
新しく上方と右側通路側で見つかった。



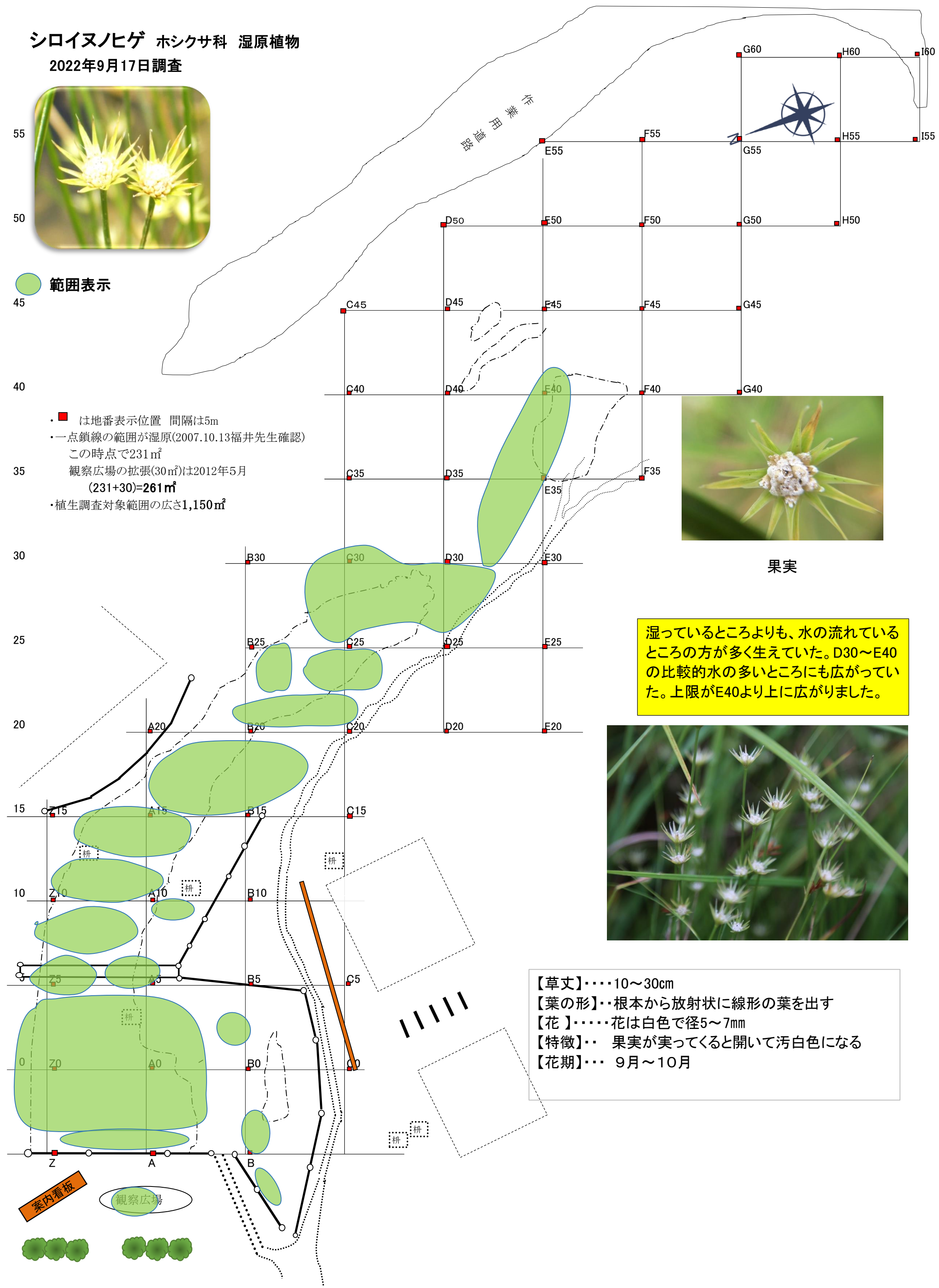
- 【草丈】..... 30～50cm
- 【葉の形】・ 葉は光沢があり 平行脈を持つ 長さ10～30cm
- 【花】..... 薄紫色で4～5cm 花付はまばら
- 【特徴】.. 果実は3室からなり 翼を持った種子がならび
熟すと三つに裂ける
- 【花期】... 9月～10月

シロイヌノヒゲ ホシクサ科 湿原植物
2022年9月17日調査



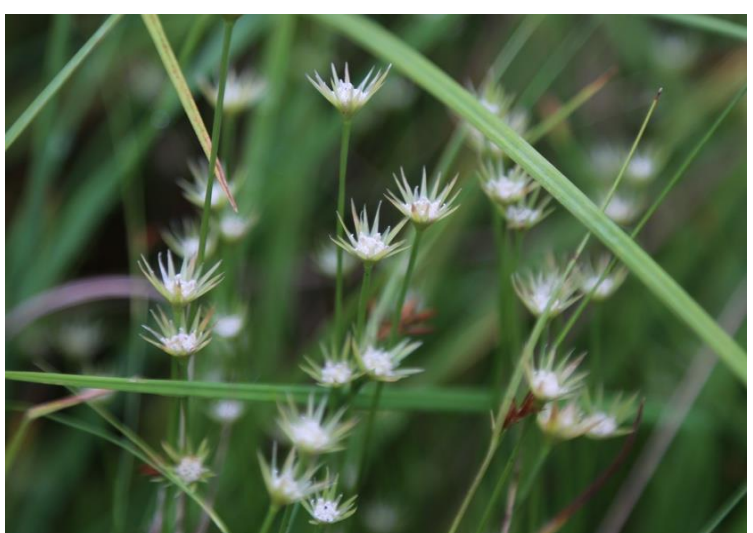
● 範囲表示

- ・ 地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



果実

湿っているところよりも、水の流れているところの方が多く生えていた。D30～E40の比較的水の多いところにも広がっていた。上限がE40より上に広がりました。



- 【草丈】・・・10～30cm
- 【葉の形】・・・根本から放射状に線形の葉を出す
- 【花】・・・花は白色で径5～7mm
- 【特徴】・・・果実が実ってくると開いて汚白色になる
- 【花期】・・・ 9月～10月

イトヌノヒゲ ホシクサ科 湿原植物
2022年9月17日調査



● 範囲表示

- ・ ■ は地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



サワヒヨドリ キク科 湿原植物
2022年9月17日調査



55
50
45

範囲表示

- ・ 地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡

35
30
25
20
15
10
5
0

案内看板

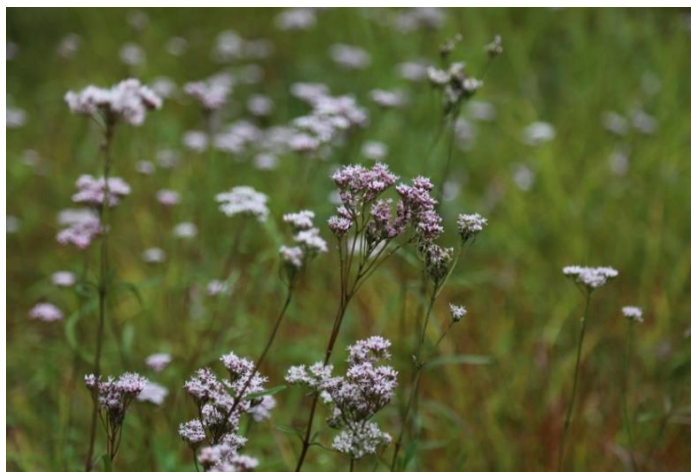
観察広場

翠峰田舎



G60 H60 I60
G55 H55 I55
G50 H50
G45 F45
G40 F40
G35 F35
E55 F55
E50 F50
E45 F45
E40 F40
E35 F35
E30 F30
E25 F25
E20 F20
E15 F15
E10 F10
E5 F5
E0 F0
D50 F50
D45 F45
D40 F40
D35 F35
D30 F30
D25 F25
D20 F20
D15 F15
D10 F10
D5 F5
D0 F0
C45 F45
C40 F40
C35 F35
C30 F30
C25 F25
C20 F20
C15 F15
C10 F10
C5 F5
C0 F0
B55 F55
B50 F50
B45 F45
B40 F40
B35 F35
B30 F30
B25 F25
B20 F20
B15 F15
B10 F10
B5 F5
B0 F0
A55 F55
A50 F50
A45 F45
A40 F40
A35 F35
A30 F30
A25 F25
A20 F20
A15 F15
A10 F10
A5 F5
A0 F0
Z55 F55
Z50 F50
Z45 F45
Z40 F40
Z35 F35
Z30 F30
Z25 F25
Z20 F20
Z15 F15
Z10 F10
Z5 F5
Z0 F0

湿原上部にもひろがっている。



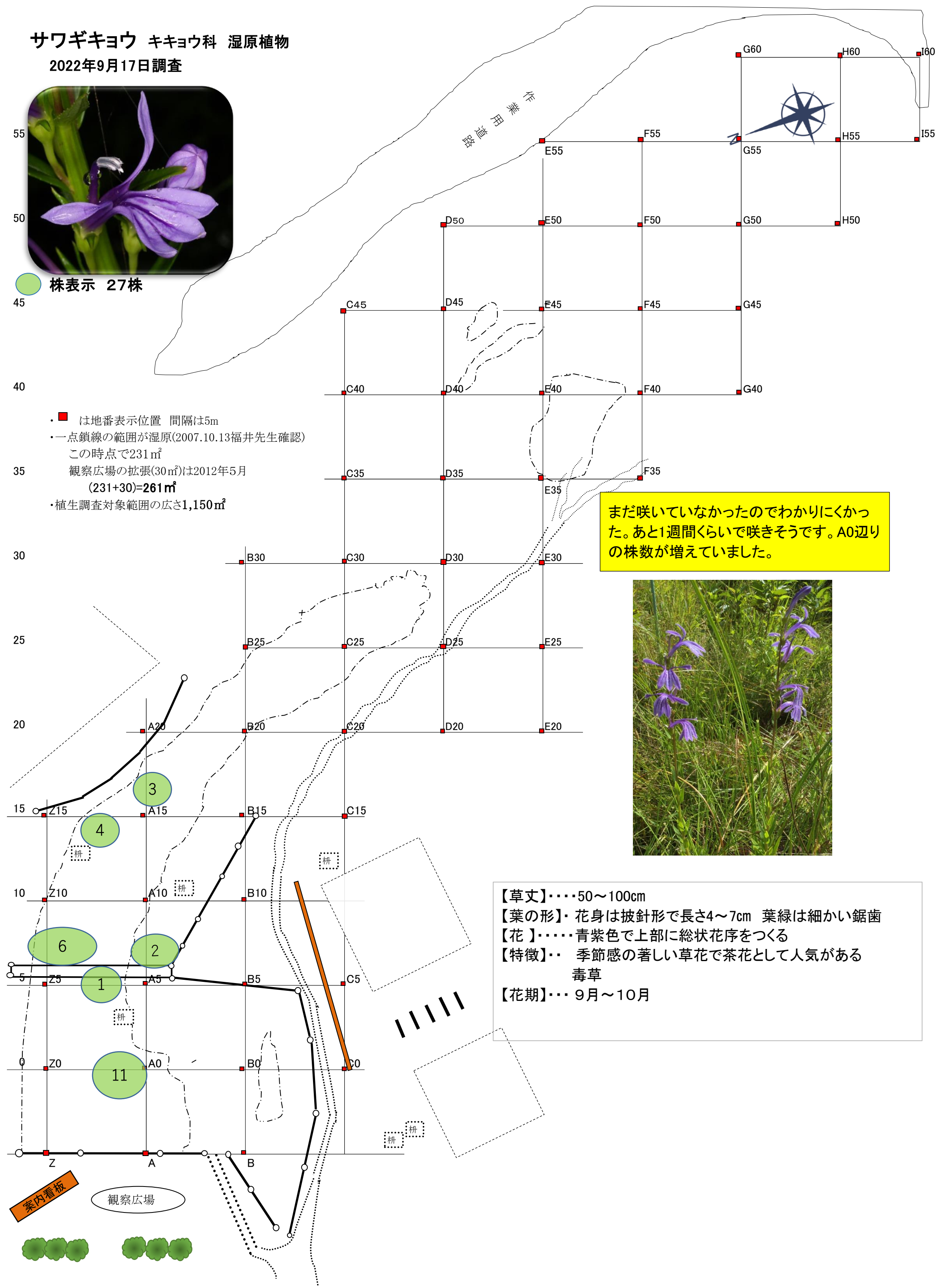
- 【草丈】.....50cm 前後
- 【葉の形】・ 細長く葉柄がないので茎に直接ついている
- 【花】.....淡い紅紫色を帯びるが白色もある
- 【特徴】.. 湿原でも強い日照りの場所を好む
- 【花期】... 8月～10月

サワギキョウ キキョウ科 湿原植物
2022年9月17日調査



株表示 27株

- ・ 〓 は地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



まだ咲いていなかったのでもわかりにくかった。あと1週間くらいで咲きそうです。A0辺りの株数が増えていました。



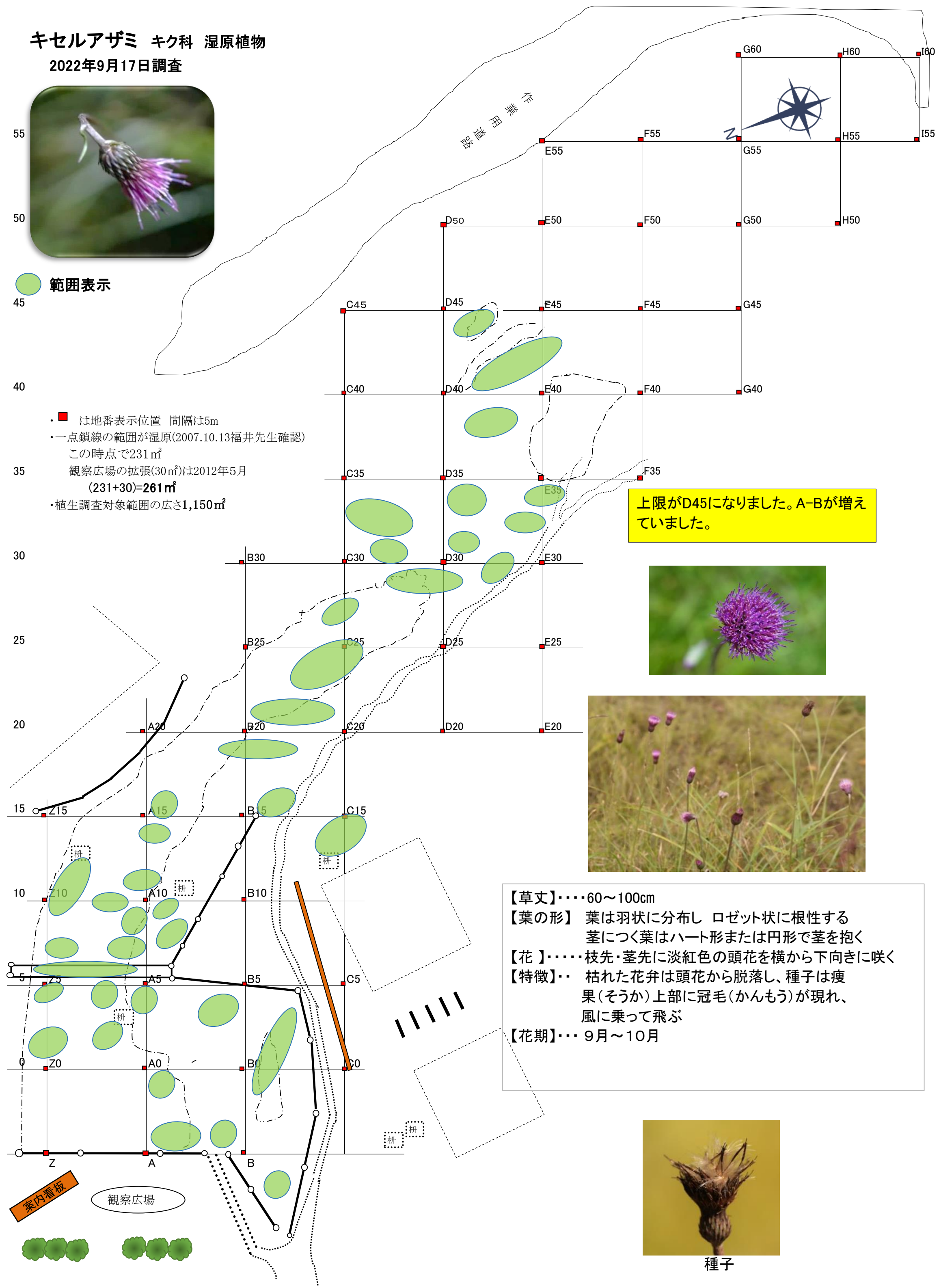
【草丈】・・・50～100cm
【葉の形】・ 花身は披針形で長さ4～7cm 葉縁は細かい鋸歯
【花】・・・青紫色で上部に総状花序をつくる
【特徴】・・ 季節感の著しい草花で茶花として人気がある
毒草
【花期】・・・ 9月～10月

キセルアザミ キク科 湿原植物
2022年9月17日調査

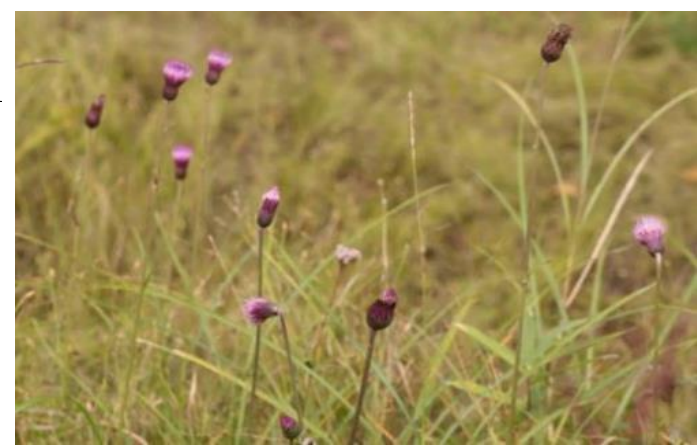


● 範囲表示

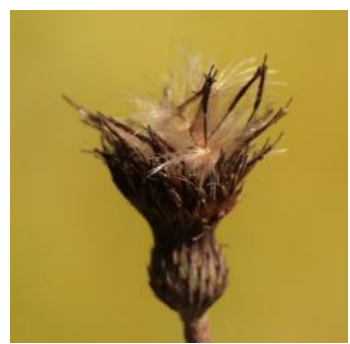
- ・ 地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



上限がD45になりました。A-Bが増えていました。



- 【草丈】・・・60～100cm
- 【葉の形】 葉は羽状に分布し ロゼット状に根性する
茎につく葉はハート形または円形で茎を抱く
- 【花】・・・枝先・茎先に淡紅色の頭花を横から下向きに咲く
- 【特徴】・・・ 枯れた花弁は頭花から脱落し、種子は瘦果(そうか)上部に冠毛(かんもう)が現れ、
風に乗って飛ぶ
- 【花期】・・・ 9月～10月



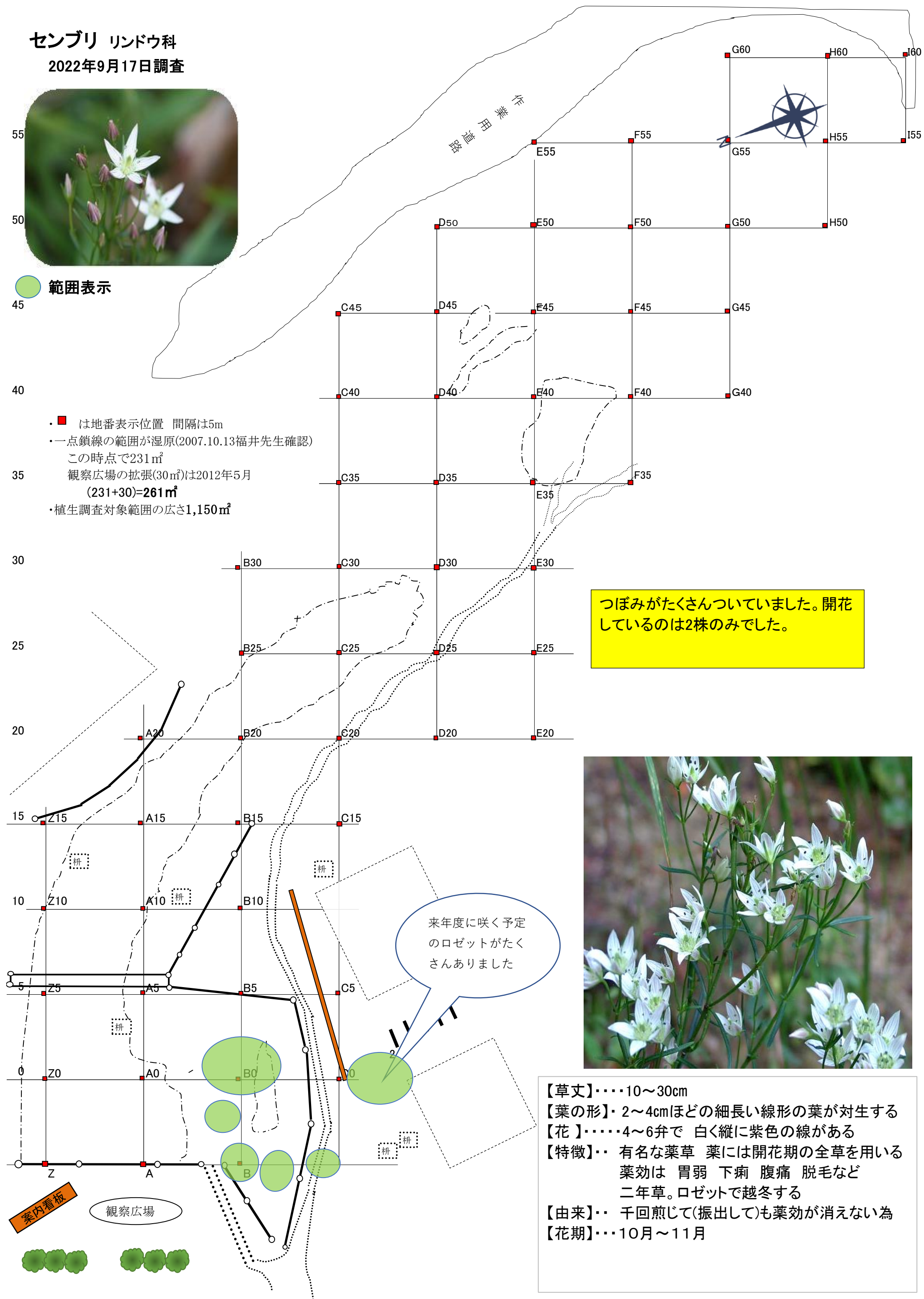
種子

センブリ リンドウ科
2022年9月17日調査



● 範囲表示

- ・ ■ は地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



つぼみがたくさんついていました。開花しているのは2株のみでした。

来年度に咲く予定のロゼットがたくさんありました



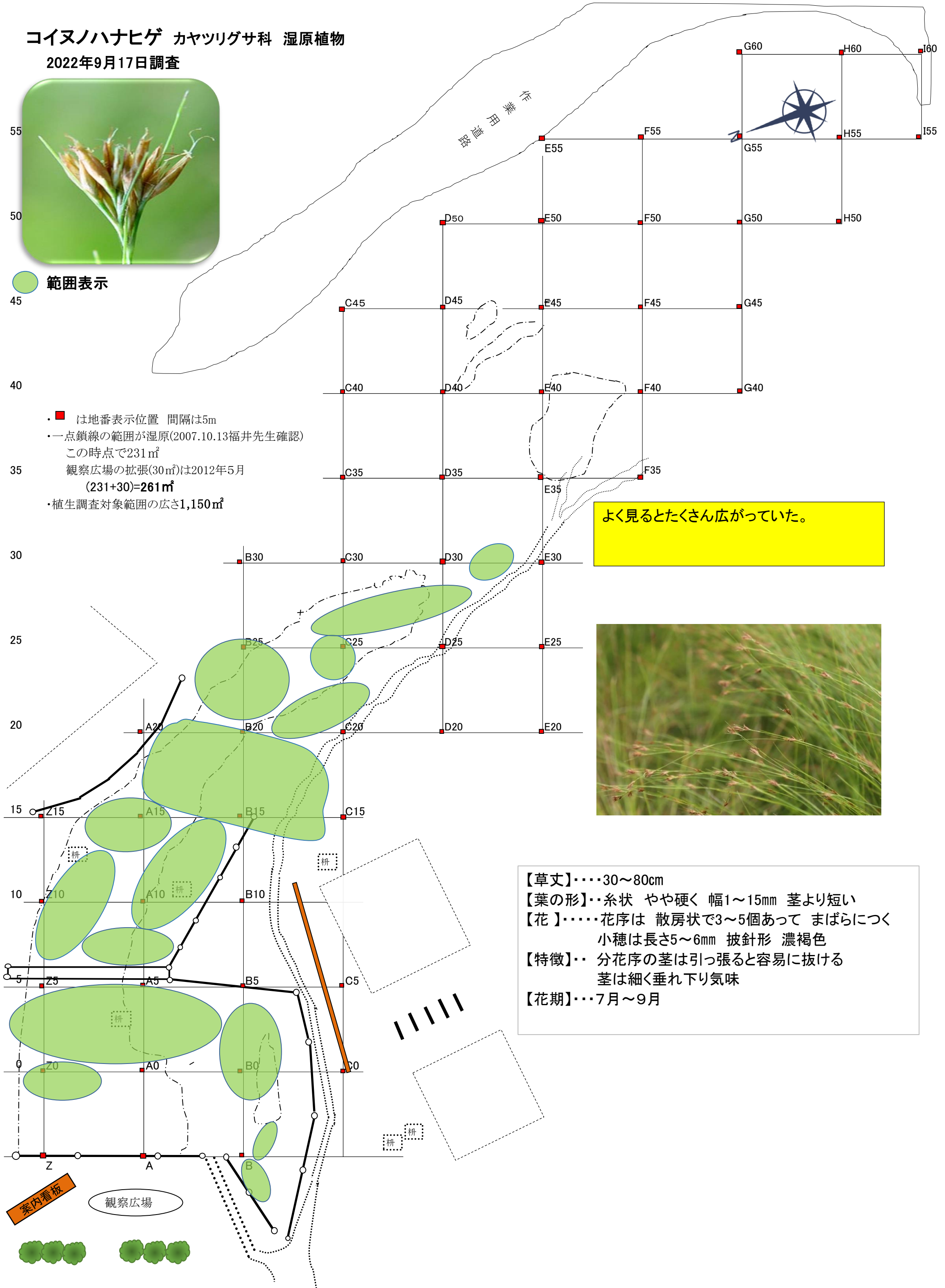
- 【草丈】・・・10～30cm
- 【葉の形】・ 2～4cmほどの細長い線形の葉が対生する
- 【花】・・・4～6弁で 白く縦に紫色の線がある
- 【特徴】・・ 有名な薬草 葉には開花期の全草を用いる
薬効は 胃弱 下痢 腹痛 脱毛など
二年草。ロゼットで越冬する
- 【由来】・・ 千回煎じて(振出して)も薬効が消えない為
- 【花期】・・・10月～11月

コイヌノハナヒゲ カヤツリグサ科 湿原植物
2022年9月17日調査



● 範囲表示

- ・ ■ は地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡

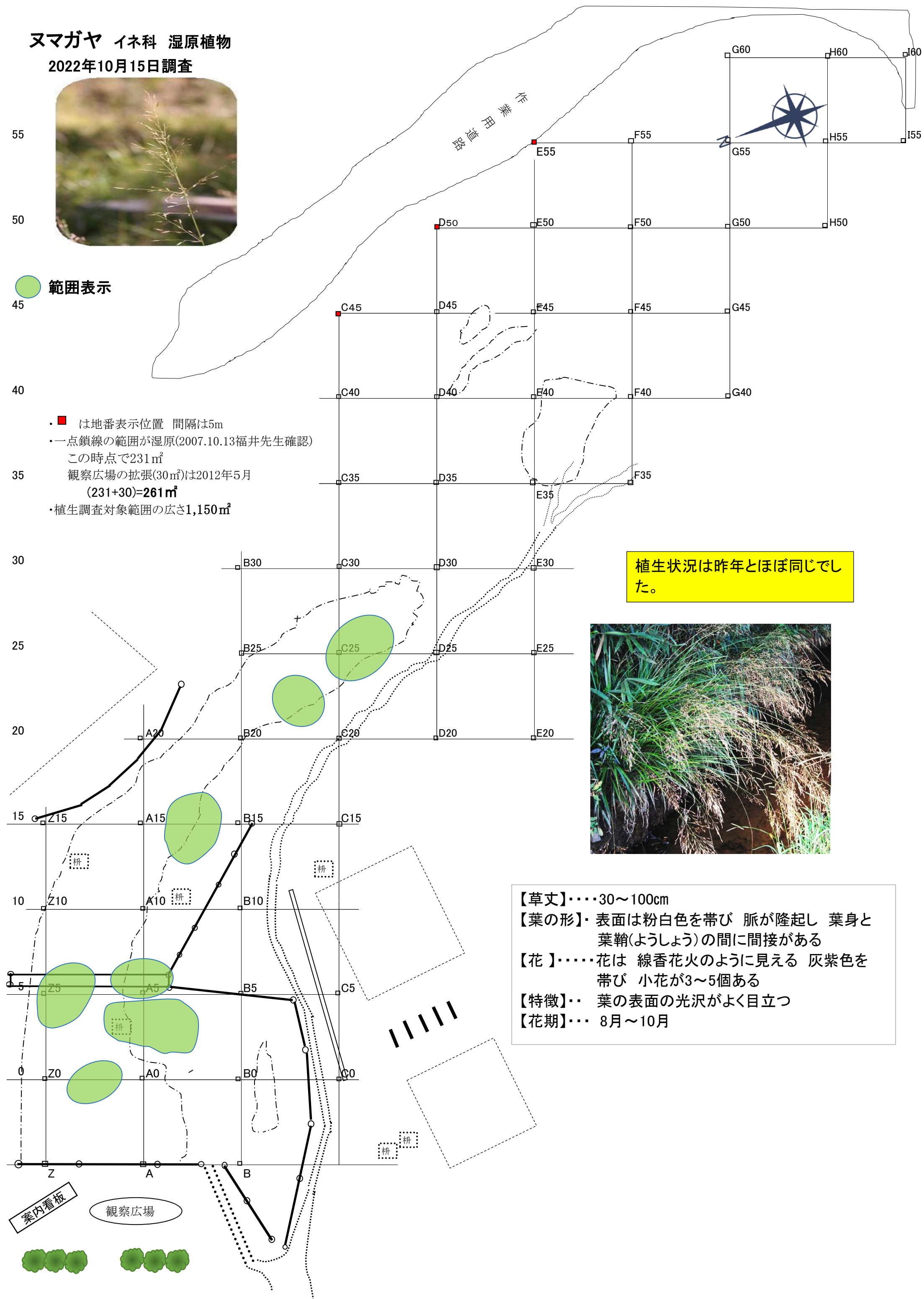


ヌマガヤ イネ科 湿原植物
2022年10月15日調査



● 範囲表示

- ・ ■ は地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



植生状況は昨年とほぼ同じでした。



- 【草丈】.....30～100cm
- 【葉の形】・ 表面は粉白色を帯び 脈が隆起し 葉身と葉鞘(ようしょう)の間に間接がある
- 【花】.....花は 線香花火のように見える 灰紫色を帯び 小花が3～5個ある
- 【特徴】.. 葉の表面の光沢がよく目立つ
- 【花期】... 8月～10月

ツルリンドウ リンドウ科

2022年10月15日 調査



株表示 8株

- ・ ■ は地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡

4株から8株に増えた。



- 【草丈】・・・40～100cm
【葉の形】・・・葉は対生 葉身は卵状披針形
【花】・・・薄紫色の花をつける
【特徴】・・・ツルは冬には枯れて根生葉を形成し
春にその中央からツルを伸ばして巻
き上がる
【花期】・・・9月～10月

リンドウ リンドウ科
2022年10月15日調査



株表示 17株

- ・ ■ は地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



蕾が多くみられた。昨年とは別の新たな場所に見つかった。
一方で昨年から減った箇所もあった。

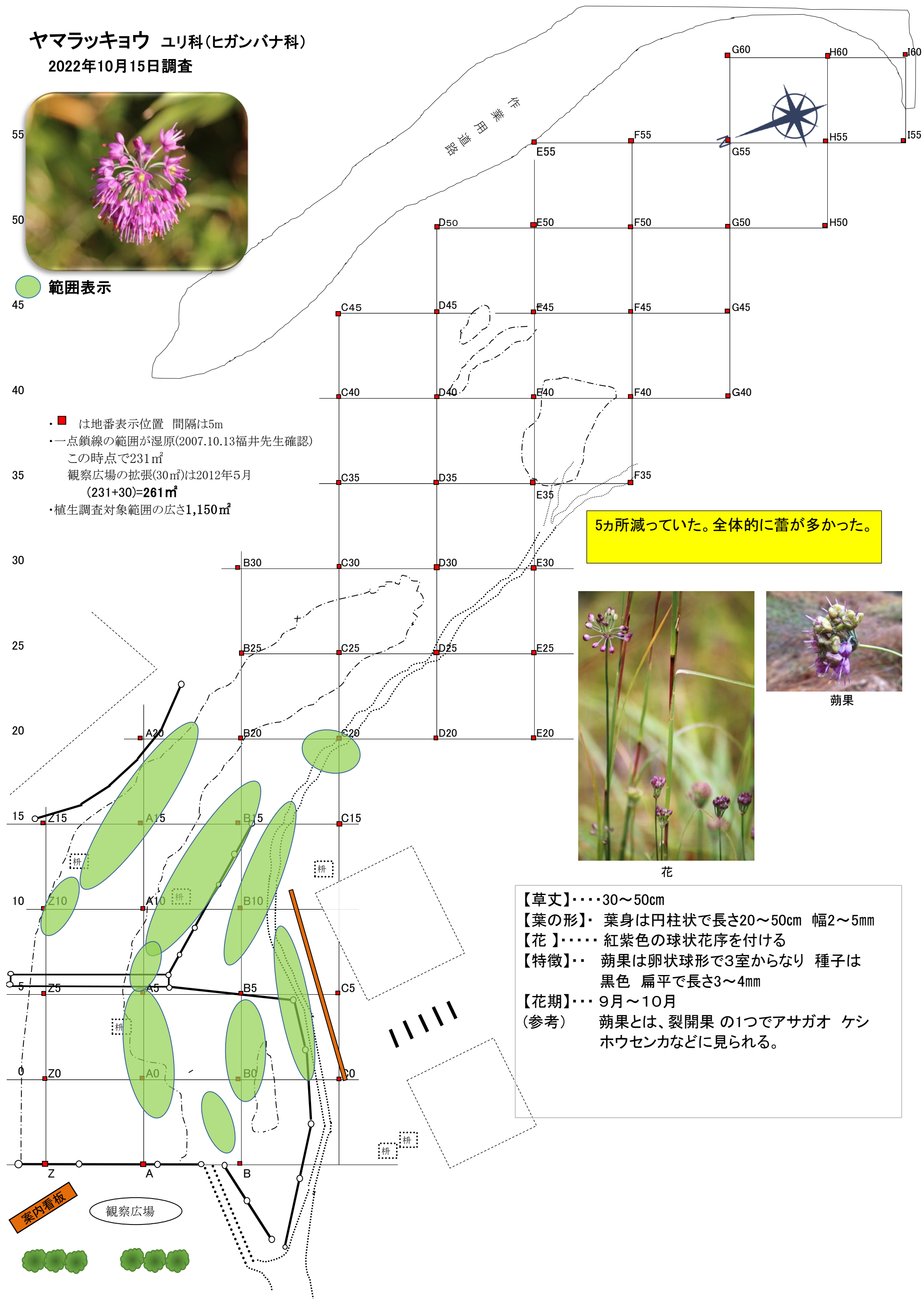
- 【草丈】・・・20～100cm
- 【葉の形】・ 披針形で 長さ4～12cm 幅1～3cmで先は尖っている
- 【花】・・・濃紫色の鐘状花(しょうじょうか)を数個付ける
- 【特徴】・・ 根を竜胆(りゅうたん)といい 苦味性健胃財として用いる
- 【花期】・・・9月～11月

ヤマラッキョウ ユリ科(ヒガンバナ科)
2022年10月15日調査



● 範囲表示

- ・ ■ は地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡



【草丈】・・・30～50cm
【葉の形】・ 葉身は円柱状で長さ20～50cm 幅2～5mm
【花】・・・ 紅紫色の球状花序を付ける
【特徴】・ 蒴果は卵状球形で3室からなり 種子は
黒色 扁平で長さ3～4mm
【花期】・・・ 9月～10月
(参考) 蒴果とは、裂開果 の1つでアサガオ ケシ
ハウセンカなどに見られる。

ウメバチソウ ユキノシタ科(ニシキギ科)
2022年10月15日調査



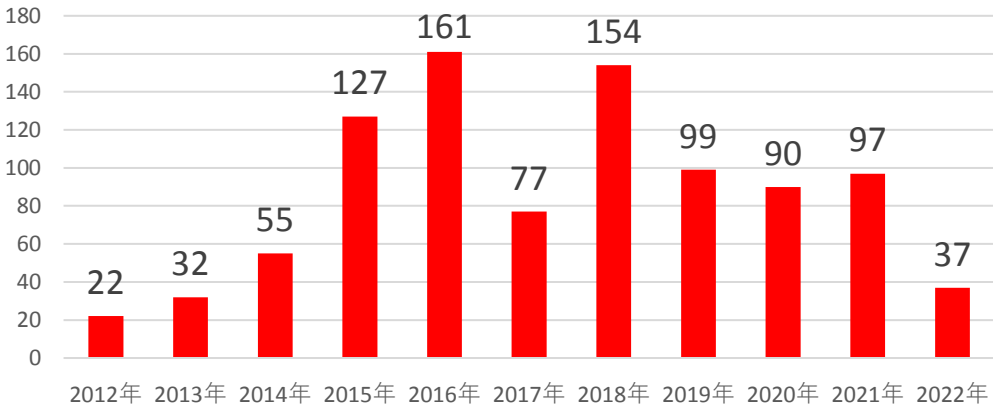
株表示 3株

- ・ ■ は地番表示位置 間隔は5m
- ・ 一点鎖線の範囲が湿原(2007.10.13福井先生確認)
この時点で231㎡
観察広場の拡張(30㎡)は2012年5月
(231+30)=261㎡
- ・ 植生調査対象範囲の広さ1,150㎡

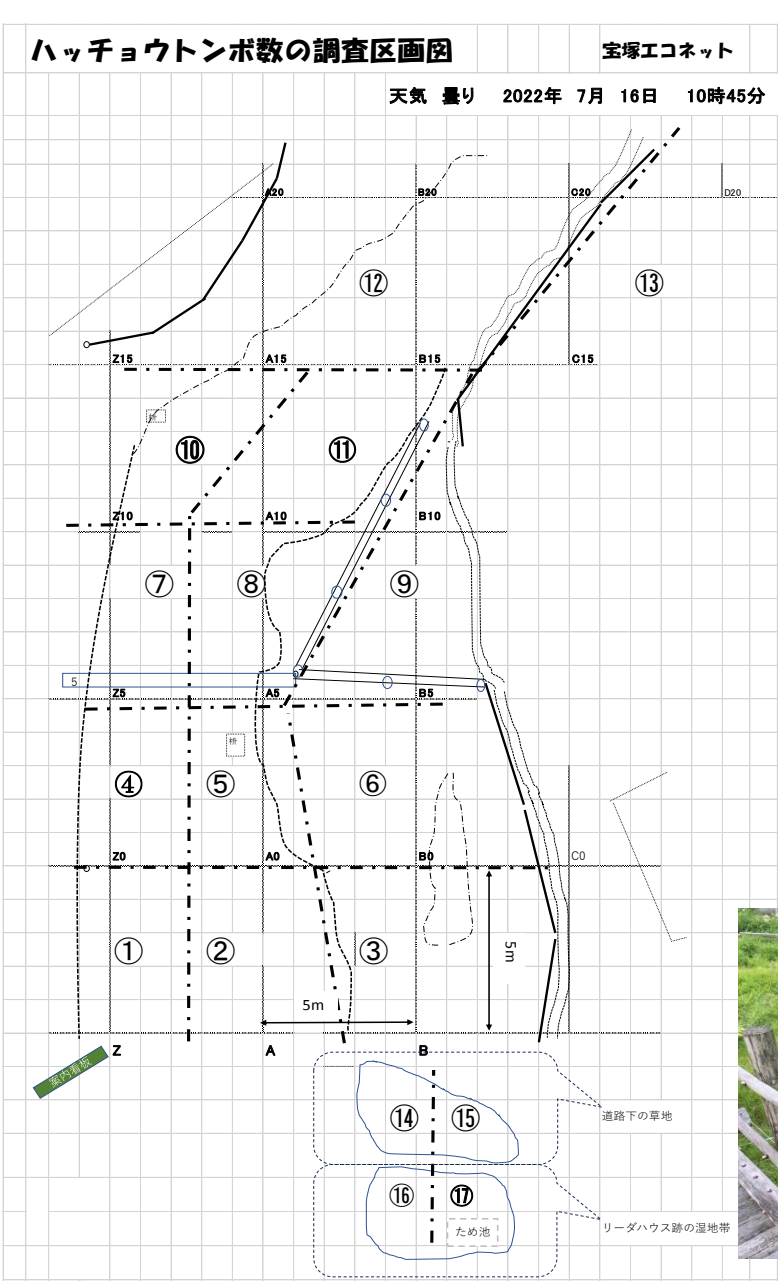


7. ハッチョウトンボの観察

松尾湿原で2012年に36年ぶりにハッチョウトンボが見つかりました。その年の調査では22匹を確認しその後数年間は発生数が増加しました。今年は37匹を確認しました。



(注) ハッチョウトンボ数の調査は、年初に決めた私たちの活動日に実施しており、その年の最も多く発生している期日とは限りません。



調査日時		2022年7月16日		10時45分	
				天気　くもり	
場所	オス	メス	不明	合　計	
①	5	2	0	5	
②	5	1	0	6	
③	0	0	0	0	
④	2	2	0	4	
⑤	0	2	0	2	
⑥	0	1	0	1	
⑦	0	0	0	0	
⑧	0	0	0	0	
⑨	0	0	0	0	
⑩	0	0	0	0	
⑪	0	0	0	0	
⑫	0	0	0	0	
⑬	0	0	0	0	
⑭⑮	4	2	0	6	
⑯	4	4	0	8	
⑰	3	0	0	3	
その他				2	
	合　　計			37	



ハッチョウトンボの観察は一般市民も参加して実施しています

8. 松尾湿原植生調査報告書の発行に寄せて

平素は、松尾湿原の保全にご尽力を賜り、心より御礼申し上げます。

貴団体におかれましては、長きにわたり宝塚の美しい自然環境を守るため、子どもたちをはじめ、市民の皆さまへの環境学習や環境保全活動に取り組まれていることに心から敬意を表します。

里山は人々が長きにわたってかかわることで、作り上げられてきた自然であり、人の手が入らないと、その生態系は瞬く間に崩れてしまいます。里山の豊かな恵みを利用しながら、身近な自然を守っていくことは、持続可能な社会をつくるための重要な取り組みと言えます。

貴団体による松尾湿原の環境保全活動により、シラサギが舞う姿に似たサギソウや国内最小のハッチョウトンボなど絶滅が危惧されている貴重な植物や昆虫を再生・維持することができております。

豊かな自然を守り、後世に残していくことは、私たちに課された責務です。今後も、自然保護の観点のみならず、景観の保全、地域振興など幅広い視点から環境保全活動の取組を進めていただくとともに、より一層のご協力を賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、貴団体の益々のご発展を祈念し、寄稿の言葉とさせていただきます。

宝塚市教育委員会 社会教育課長 河合 晋一

編集後記

今回は宝塚市教育委員会社会教育課から寄稿を頂きました。
御礼申し上げます。

今年度は計画通り活動を行う事ができました。
ホームページのブログより松尾湿原植生調査活動の記録を見ることが出来ます。
植生調査報告書は皆様に御協力頂き、無事に発行することが出来ました。
ありがとうございました。

西村 昭

編集委員

伊藤千賀子 梶原暢元 小宮真佐代 藤田勝巳 湯浅富美子
目黒清三 西村 昭

宝塚エコネット(略称;TEN)

宝塚エコネットは宝塚市の自然環境保全などの活動に取り組んでいる環境ボランティアグループです。

主な活動

- ① 宝塚市指定天然記念物 松尾湿原 の保全活動、及び植生調査活動
- ② 逆瀬川の西山橋近くのホタルの里「ピカピカランド」の整備・管理及びホタルの幼虫放流会
- ③ 小学生の環境学習
- ④ 環境美化活動

2022年度 松尾湿原の 植生調査 報告書

- ・編集 宝塚エコネット
- ・発行日 2023年12月
- ・所在地 〒665-0867 宝塚市売布東の町12-7 ぶらざこむ1内
- ・TEL 0797-86-5001 ・FAX 0797-83-2425

ホームページ

宝塚エコネット

http://www.geocities.jp/echonet_t/
ブログ(ホームページからリンク可)

